

改撰

大工初心圖解初編

棟田長司著

上

棟
42
29

多
1911
1



多
1911
1-2

猿田長司著

改撰 大工初心圖解 初編

東京 千鍾房藏

大工初心圖解初編序
凡此書を額留と始として振漏斗留墨仕様四方轉作様其
軒廻り振隅諸の曲尺遣を專として編を撰作賜ふ往昔

至編作も種々有といつども實撰の振漏斗留墨ハ何れも付
振隅軒廻り編も有といつども振隅諸の曲尺遣何れも付

初心のゆゑは圖式手取取て引が如くは工師猿田氏は發明
賜ふす四方轉物正面を四方一轉といつども隅より見ると

片轉は有之此理は心得て作上ハ四方轉又ハ五方轉六方轉
ても同理方ありす隅木も陸を元として作上を平の上り木

も同様只々平と隅との相違有は付隅の上り木を作も同様多
今の違は手重よりす匠家と圖を元とす故に何も書は
あつて圖學専用あり

大工初心圖解初編序



改撰 大工初心圖解初編卷之上目録

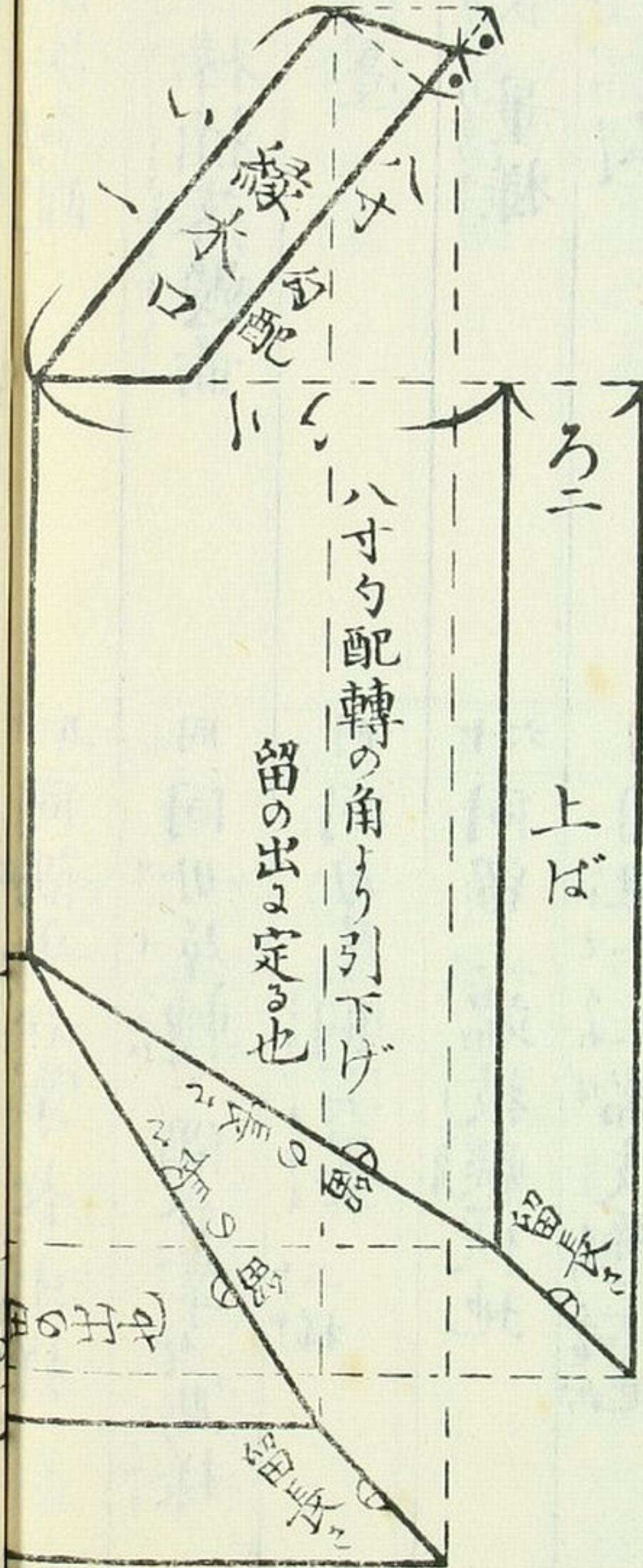
一	額留之墨仕様圖	十	同癖定規柱桶落懸
同	額之圖	同	同桶 同伏地
二	振漏斗留墨仕様圖	一十	同振地割ヨリ各墨曲尺出様
三	振漏斗胴突墨之畷	二十	方形合掌作地棟鼻大栓畷
四	脚立建地割圖	同	同小屋伏地
同	同四方轉造様	三十	同隅合掌
五	同柱又曲尺遣様	四十	同隅合掌尻又仕様組手
同	同曲尺出様	同	同配付合掌鼻栓止仕様
同	同貫胴突勾配	五	同隅合掌長出様
六	定規柱棒桶落懸畷	同	同母屋轉を隅合掌馬様
同	同落懸墨	同	同母屋胴突墨 二様
七	同桶長量様	六十	同留上端枝懸伏地
同	同榑配付墨	同	同組手上端枝懸伏地
八	同鼻隱向留	七十	同隅合掌配付穴墨仕様
同	同廣小舞下端留	八十	同榑長取様
同	同藥研樋隅伐様並留曲尺	九十	大唐破風之畷
九	一尺付六寸ノ振地桶曲尺遣畷	十二	同圖

大工初心圖解初編卷之上

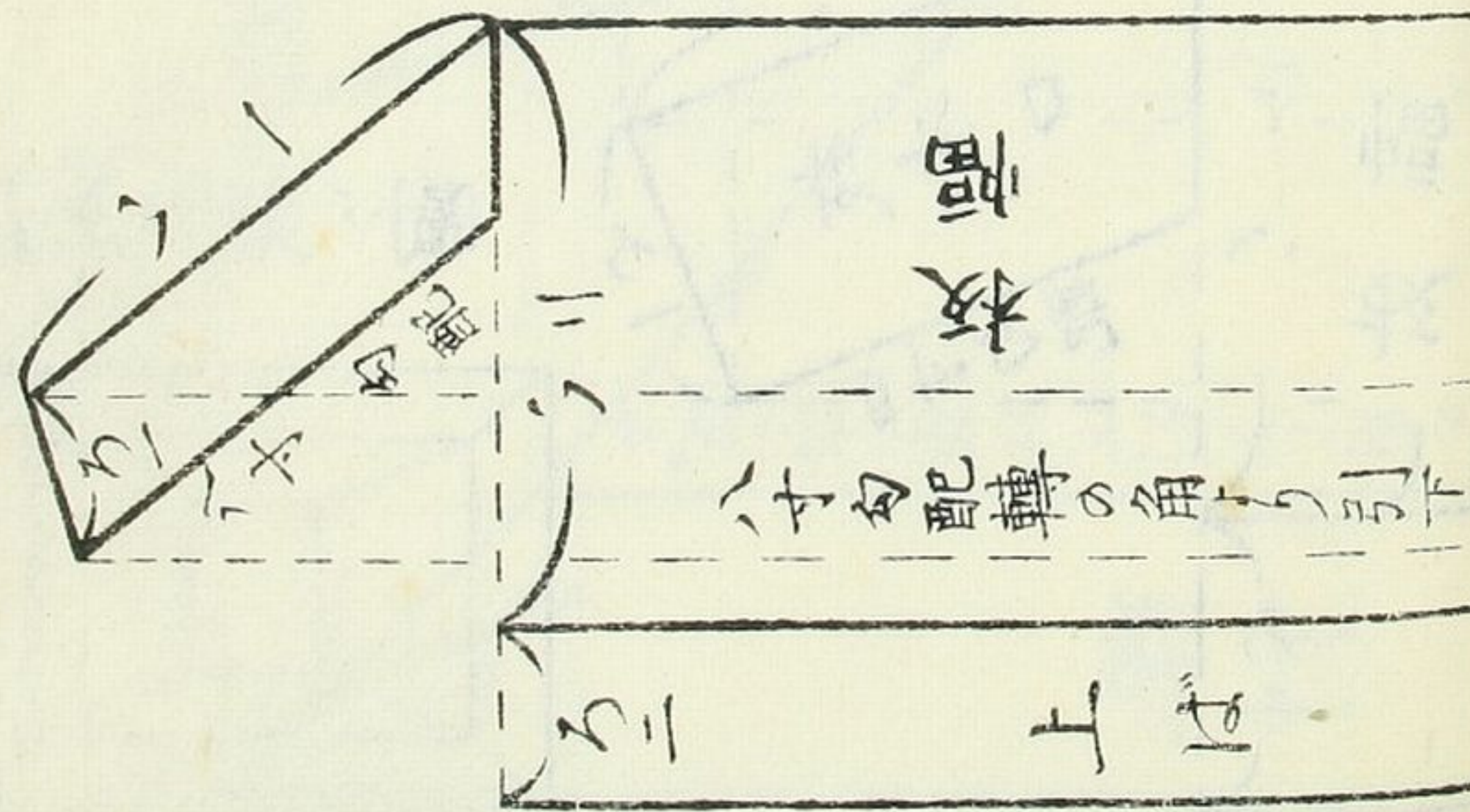
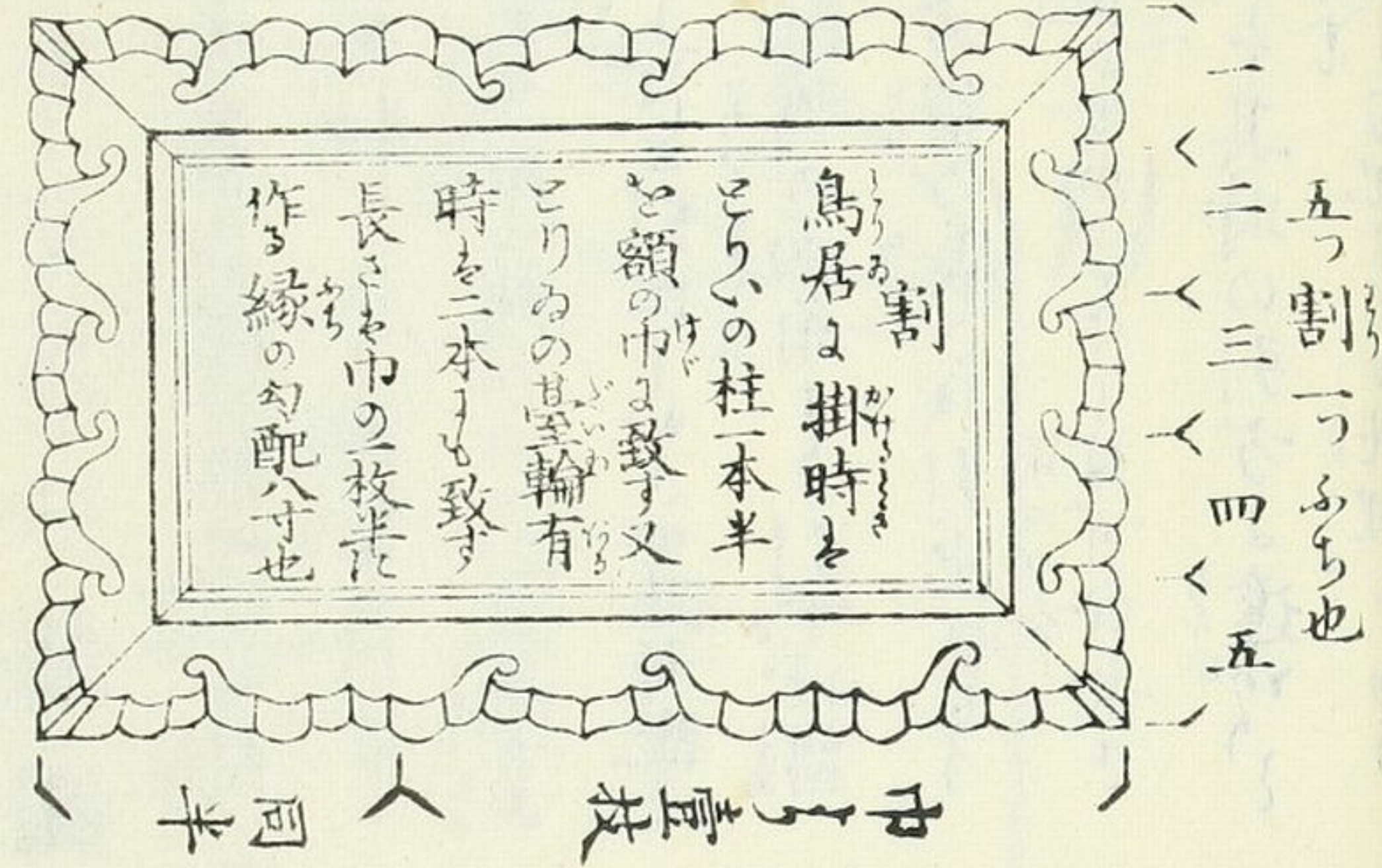


額留之墨仕様圖

一 額留墨仕様を八寸勾配の縁木口と引出し
 (い) 一の寸と (二) 駕 (ろ) 一の寸と (ろ) 二駕一板
 幅と上げを引出しを八寸勾配の角より引出す也
 引下げ留の出は定り留の長さで引出す也



額之圖

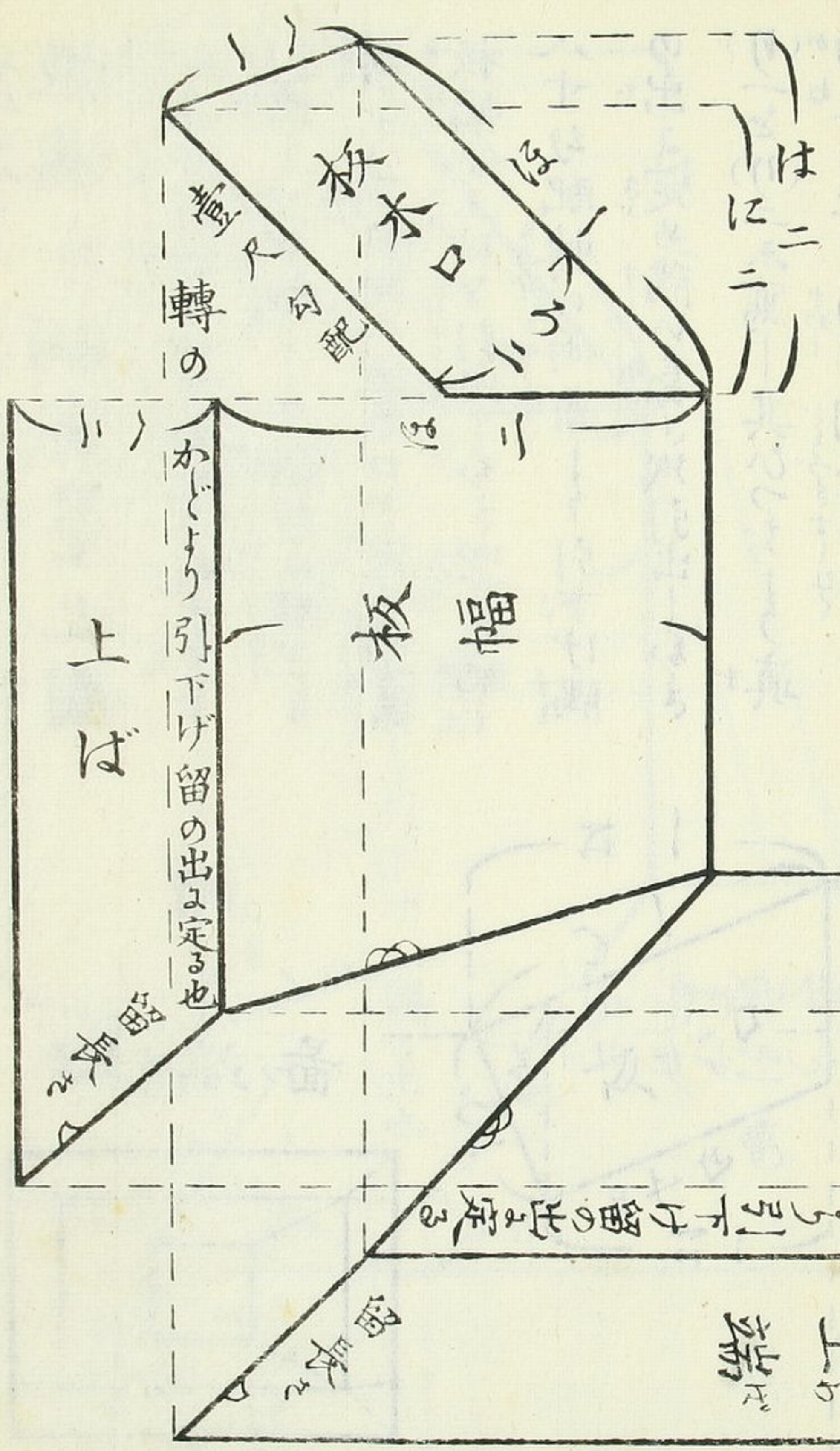
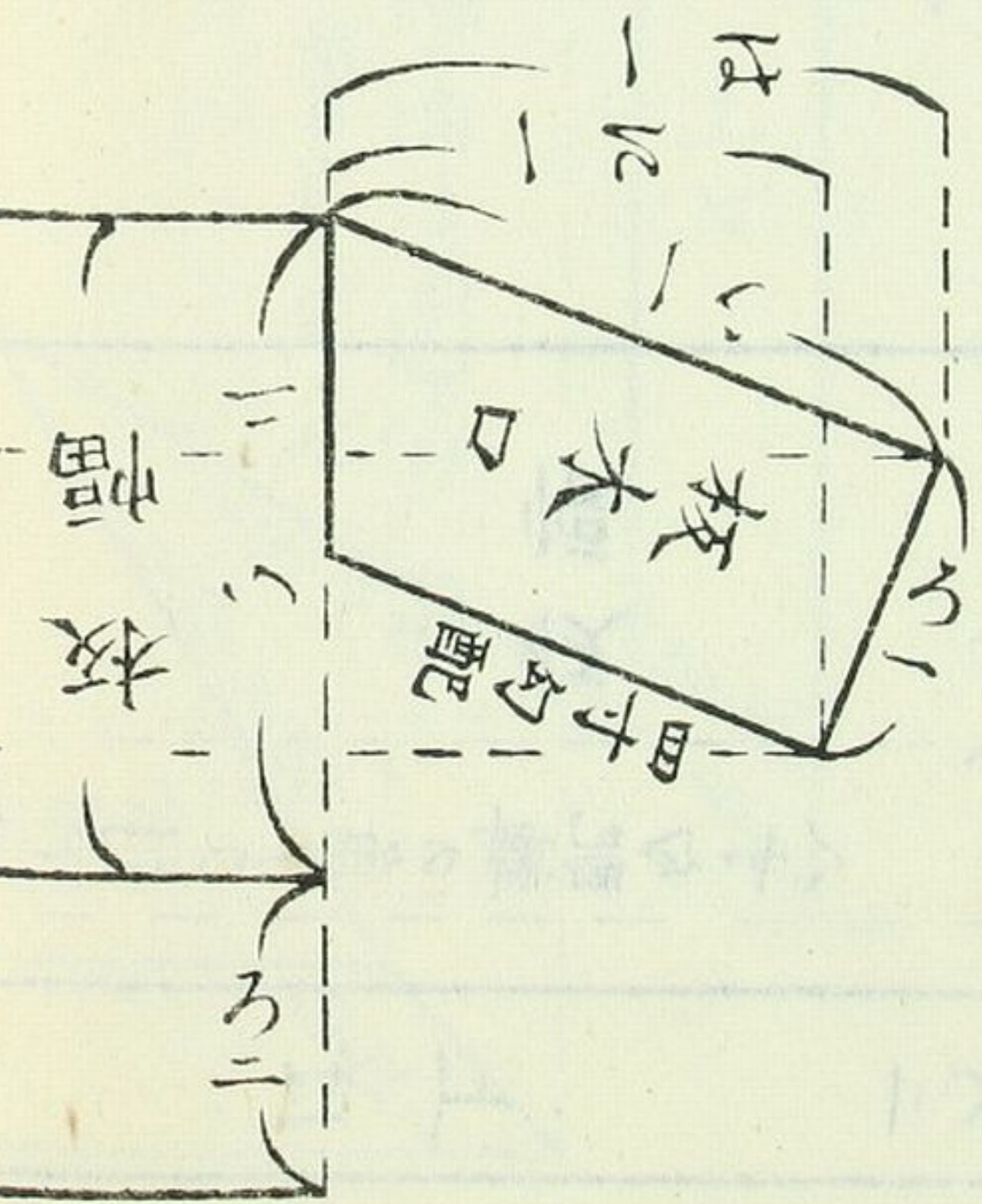
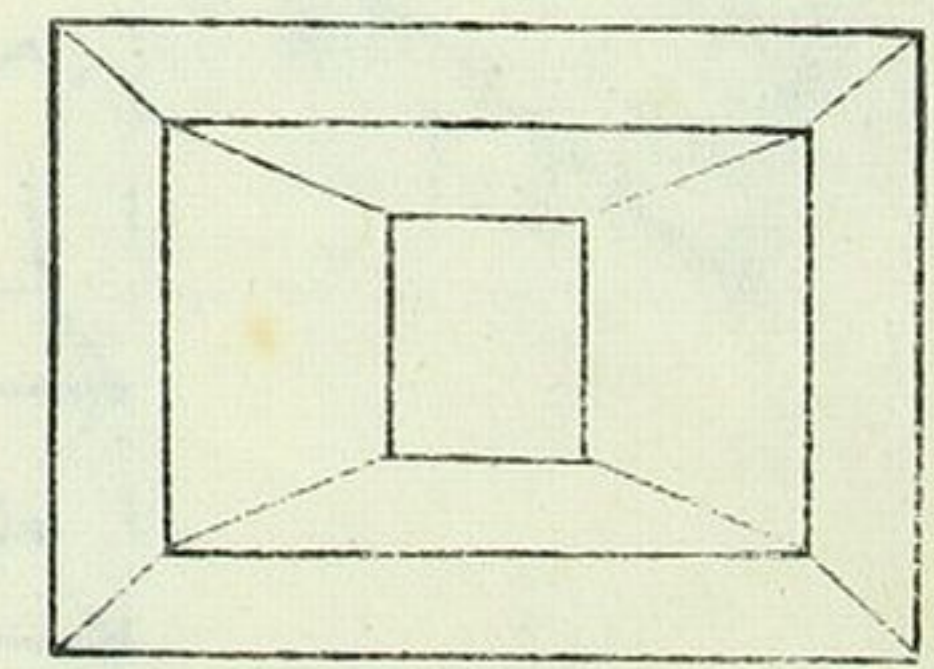


振漏斗留墨仕様圖

一 留墨仕様を寸配の板木口を引
 出(い)を初めとして額留の理方は
 寫し壹尺寸配の板木口を定め兩方の
 板幅と上げと引出しを四寸寸配と
 壹尺寸配轉の兩角より引下げ留
 の出は定め留の長さ引引出すあり
 又留の長さも兩方さし月可合長と
 不合時を其時の引方は違なりと
 可知何寸寸配をも此理方あり

同

圖 上端

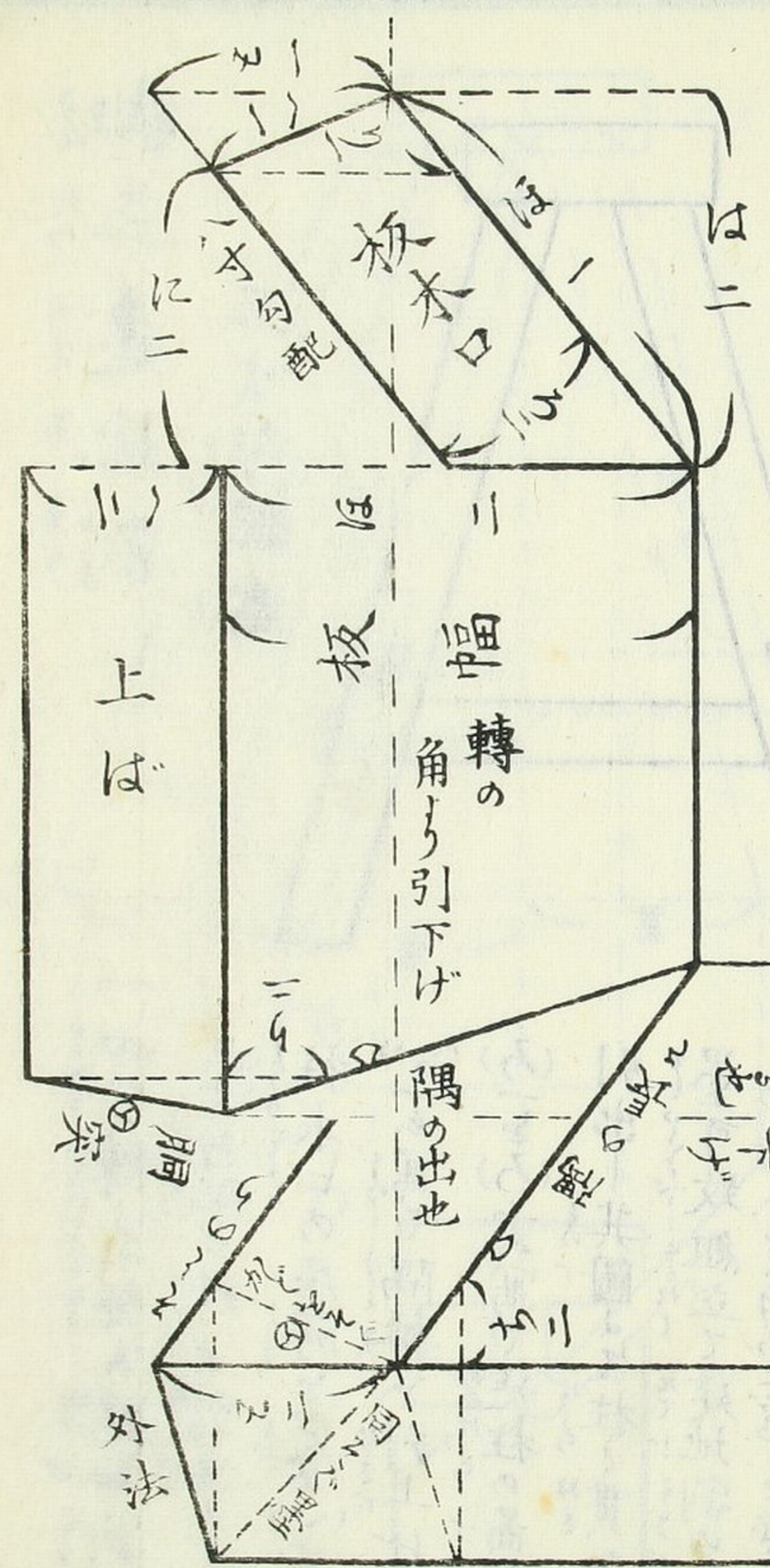
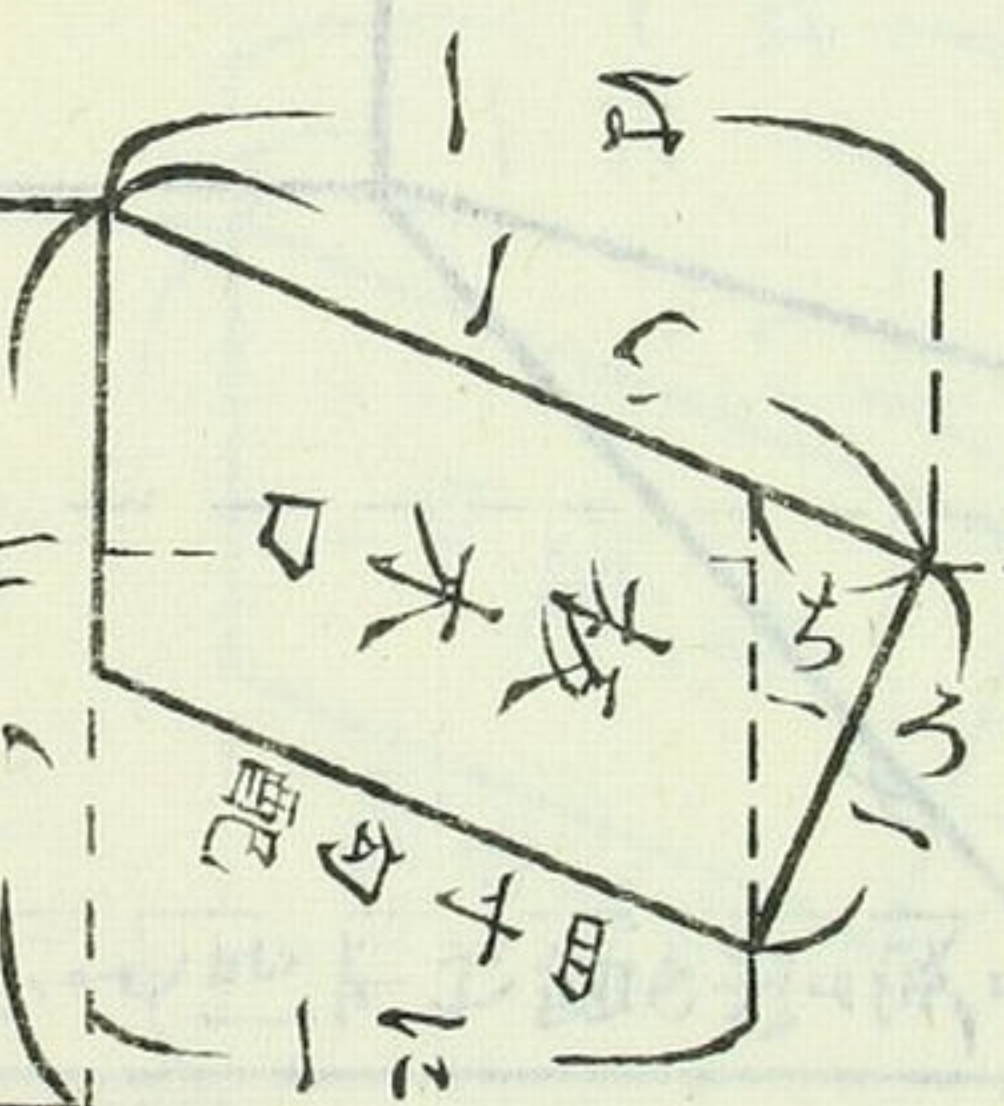
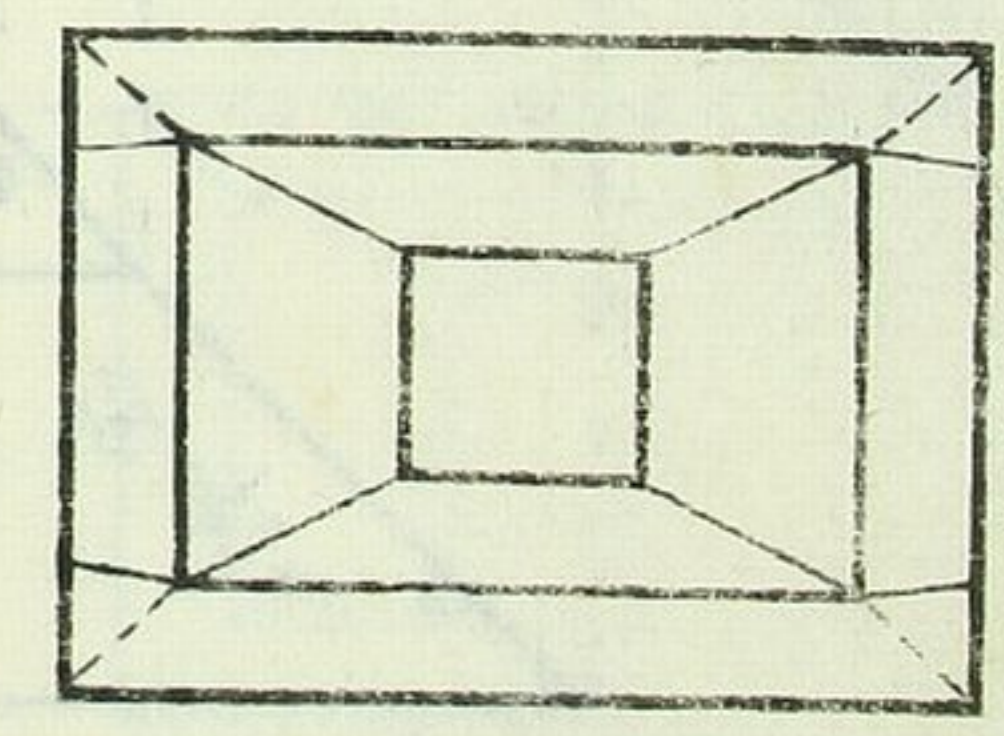


振漏斗洞突墨之圖

一 洞突墨仕様を四寸勾配の板木口を
引出し(一)と初として額留の理方よ
寫し八寸勾配の板木口を定め兩方の
板幅と上はを引出し(一)と四寸勾配
八寸勾配轉の兩角より引下げ隅
の出に定め隅の長さ板引出し(一)と
り(一)と(一)二ふ寫し其いつちより真
曲尺よ上はを廻て洞突墨引あり
又(一)と(一)二ふ寫し外法の出を定め也

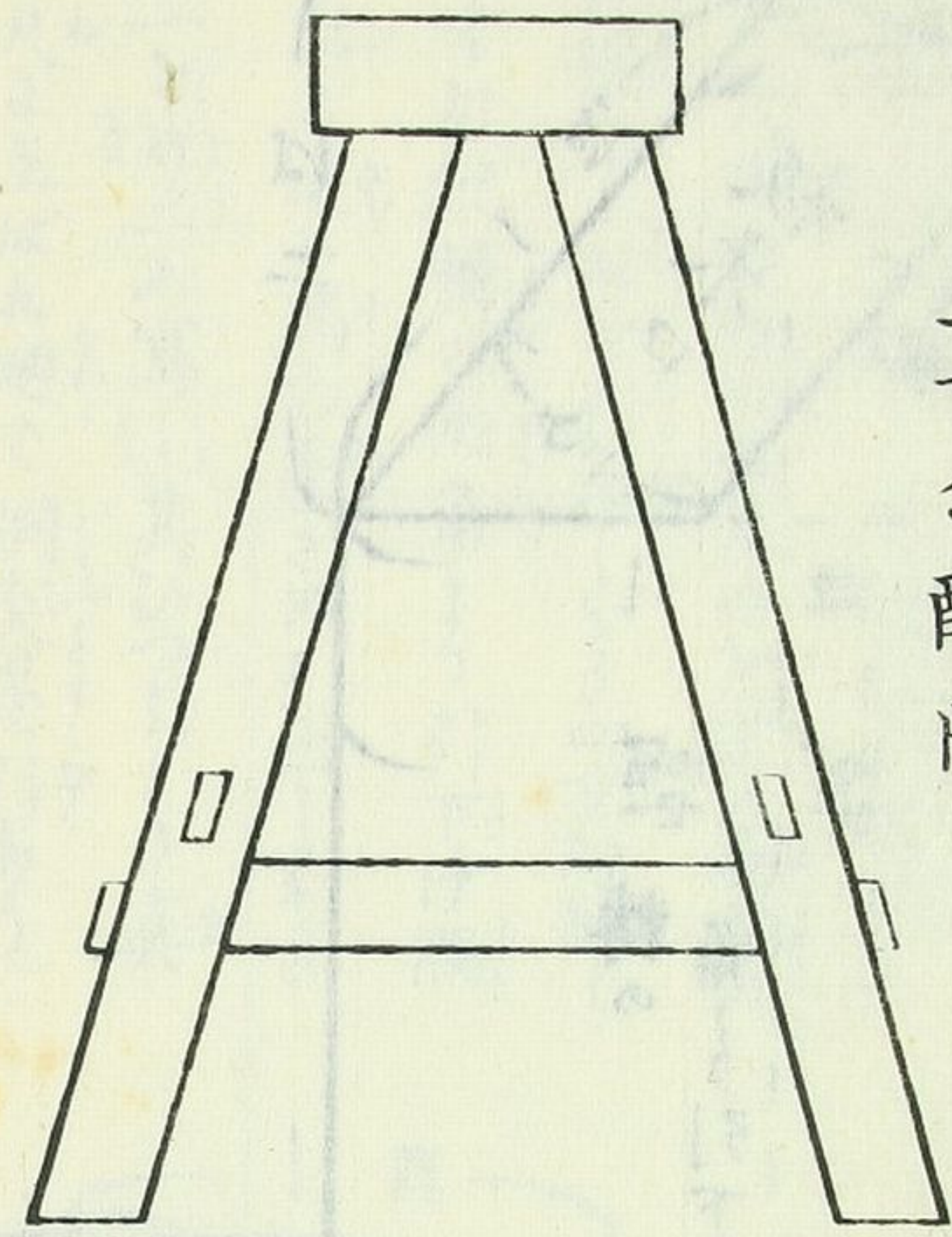
同

上端備

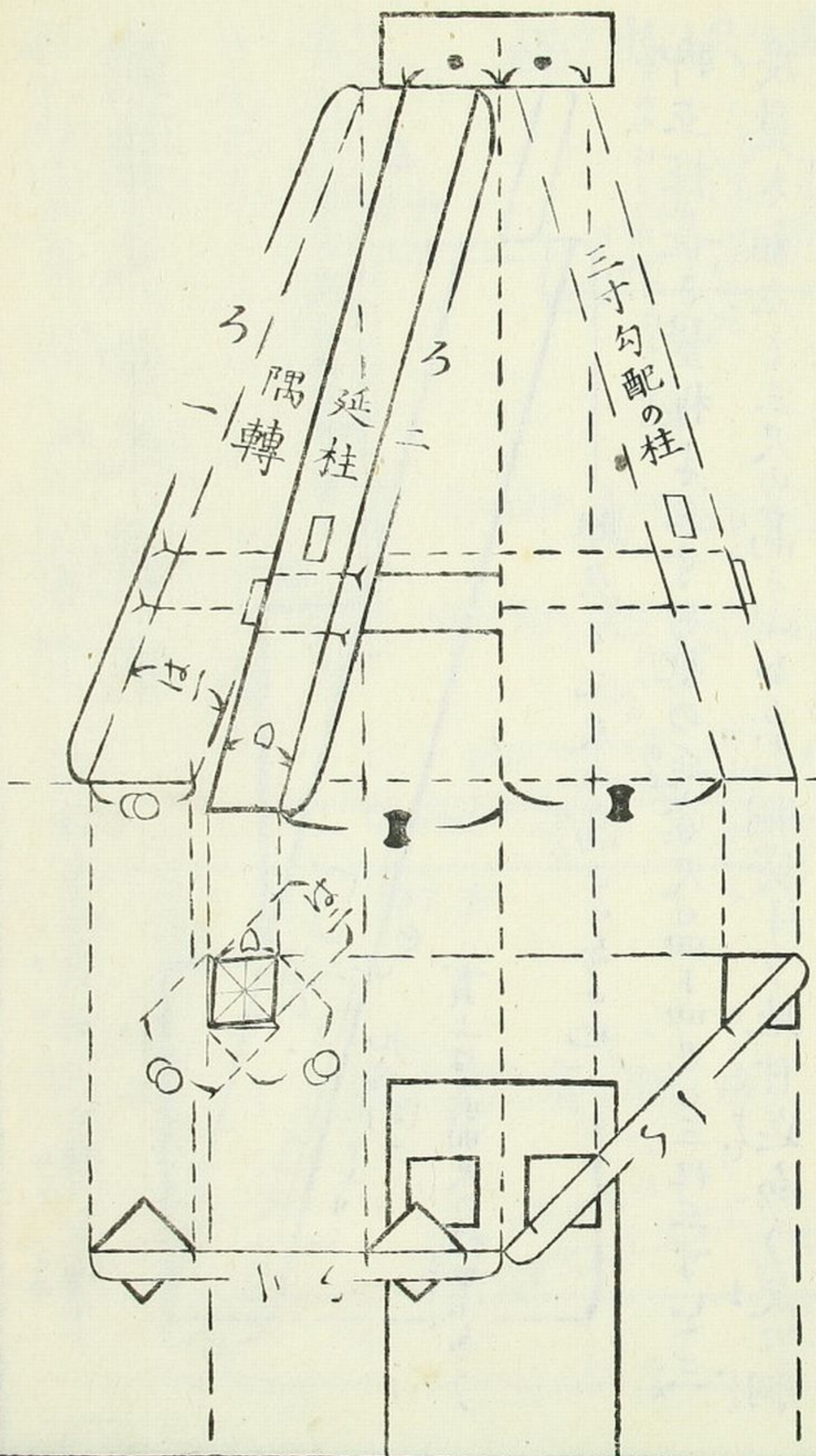


脚立建地割

三寸勾配圖



同四方轉造様



一 四方轉造様を建地割

三寸勾配の柱を引出し

柱木口の居所を定め(一)を

(二)を寫て隅轉を引上げ

(三)と(四)を寫て延柱の面を

引出し其圖を柱貫を

墨可致組立て建地割の如

くある也又柱木口癖出

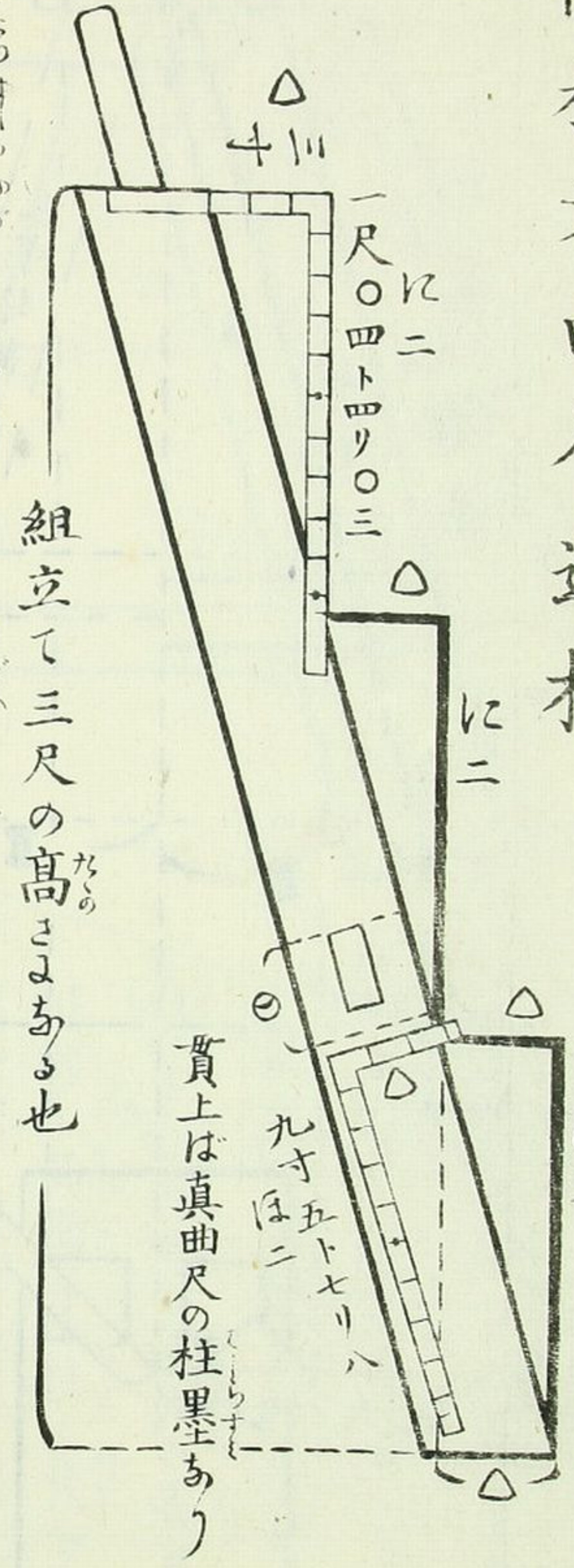
様を(一)と(二)を寫て木

口割を築又造るあり

大工初に番角初級者之上

同柱又曲尺遣様

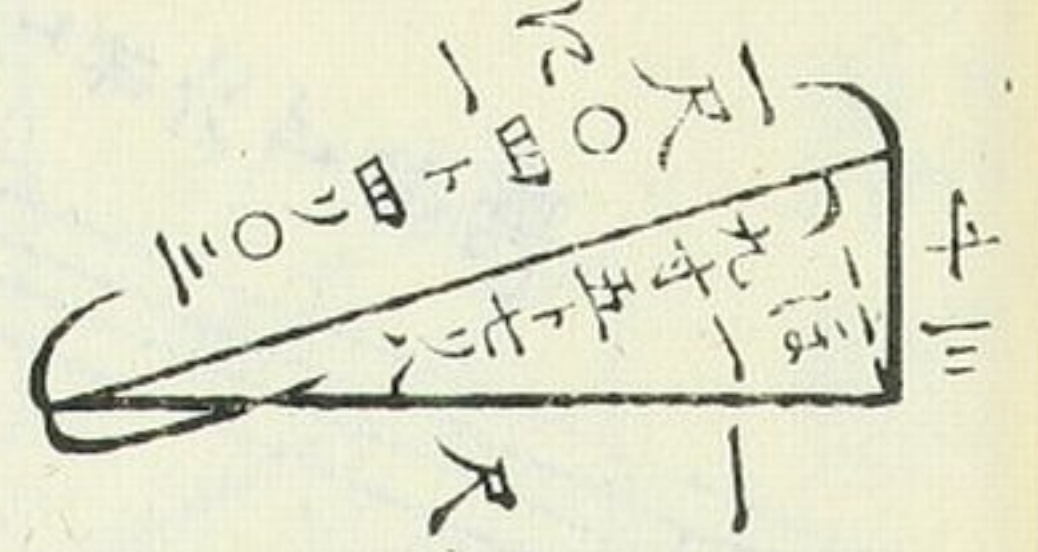
尤此方を真曲尺の貫と通す



組立て三尺の高さよあり也

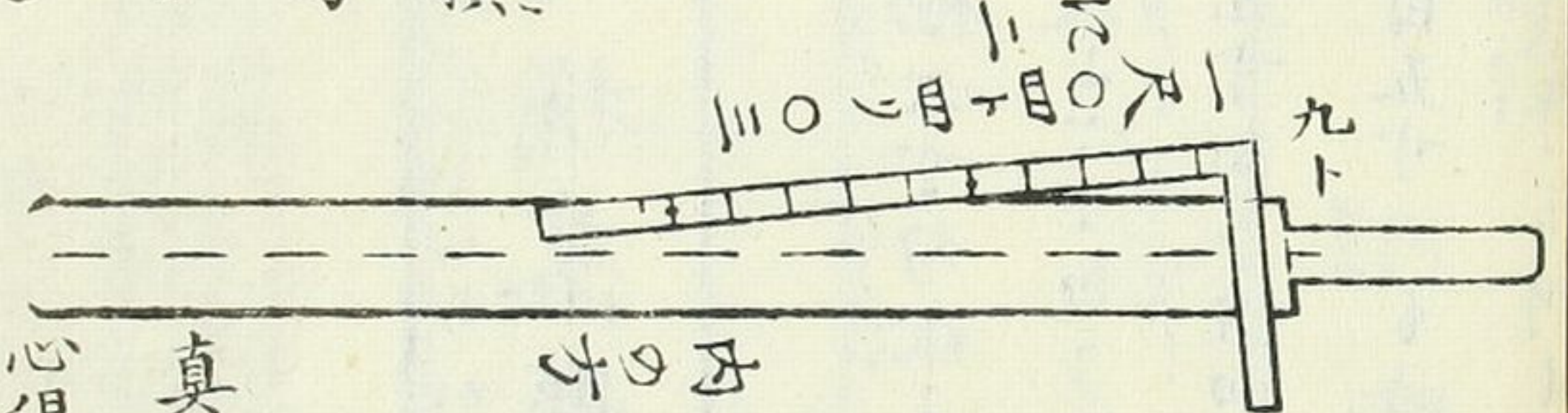
一脚立柱長さ量様と三寸勾配の延壹尺〇四ト四リ〇三に三寸と三
 度量を組立て三尺の高さよあり尤胴突より地付迄あり又た胴
 突の勾配も此曲尺あり又何寸勾配ても其時の勾配の延壹尺
 何寸分有とて壹尺と致す横手と其勾配の寸あり

同曲尺出様



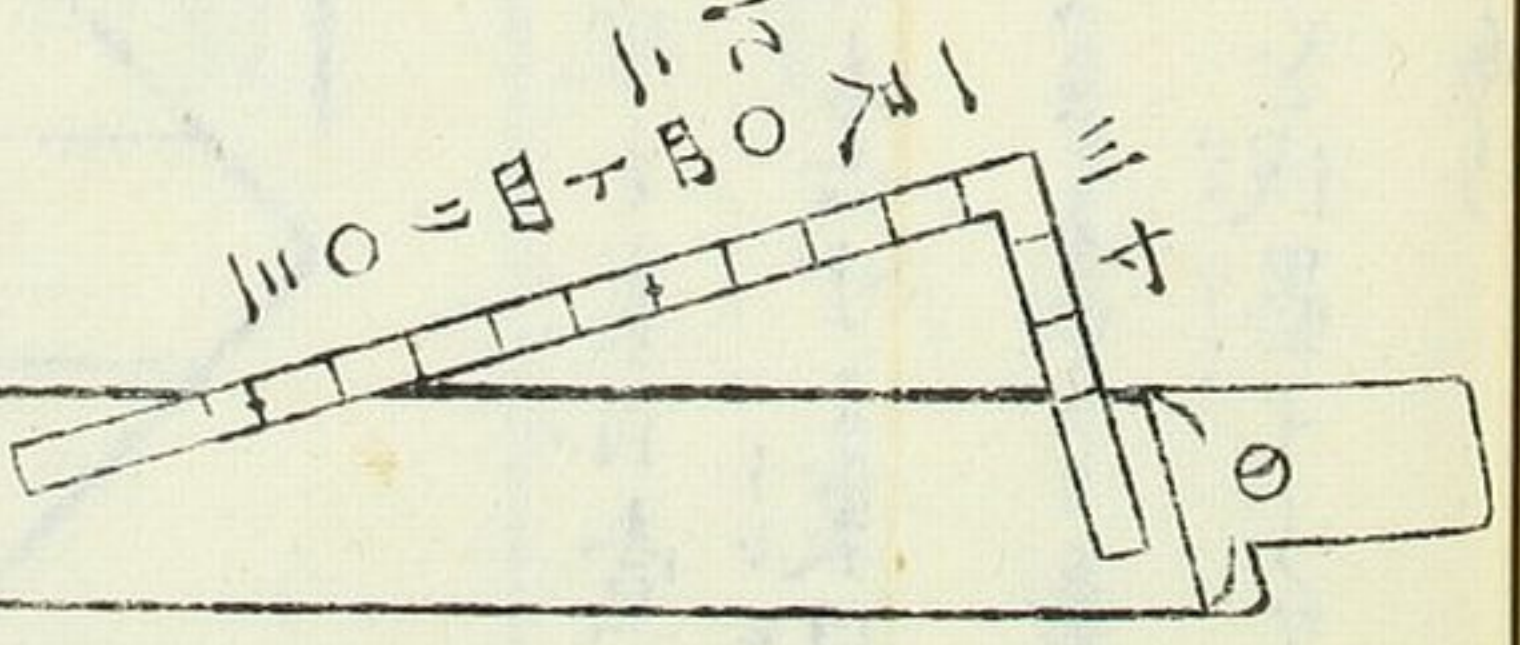
同貫上端 同胴突之勾配
 尺曲真端上貫同
 配勾之突胴端上

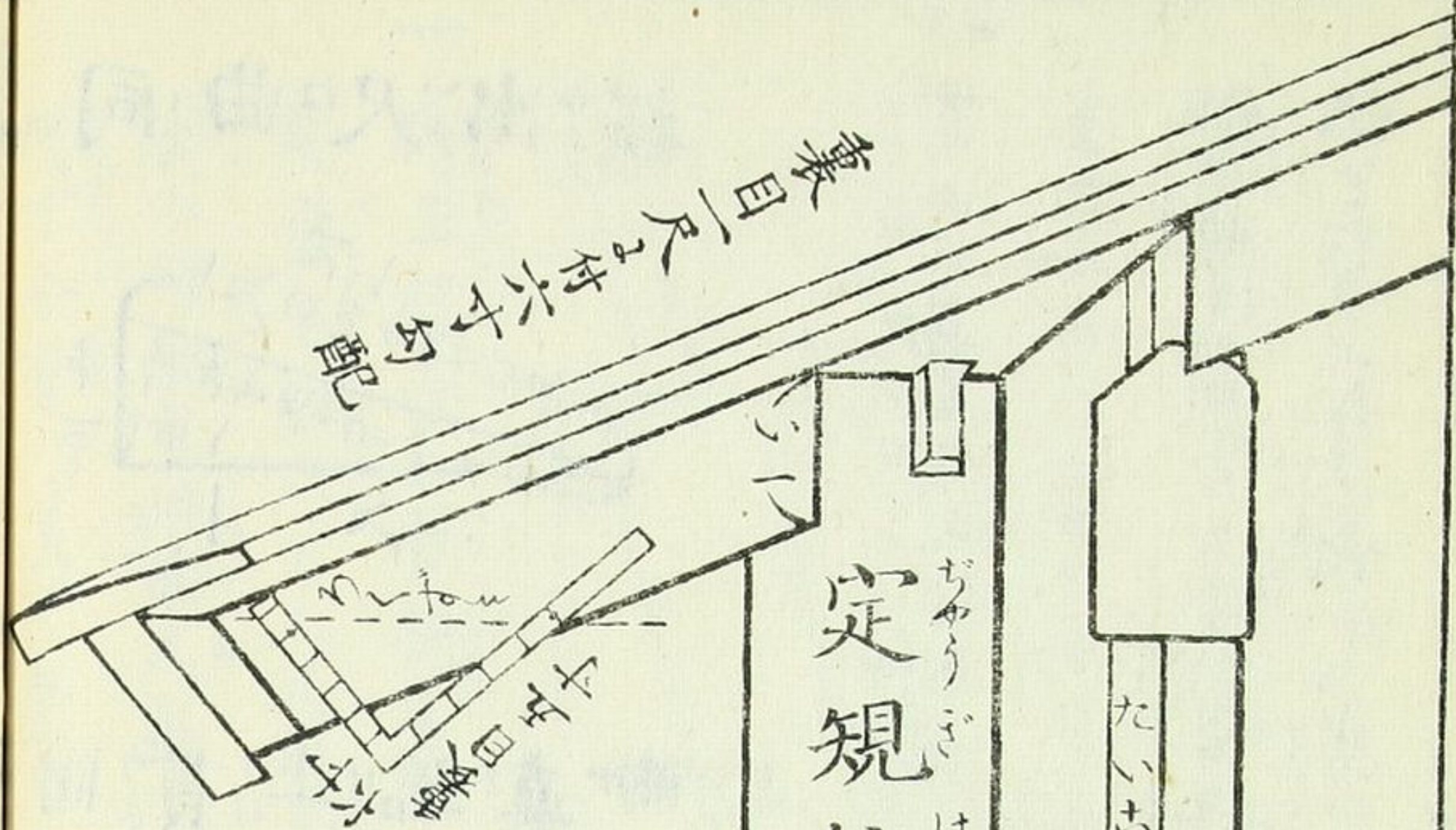
一貫上は真曲尺上ば胴突の勾配横
 手九分と三三の九分あり但四寸勾
 配の時と四寸六分何れも其時の勾
 配をかけるあり長手と其勾配の延



同貫成 同胴突之勾配
 配勾突胴成貫同

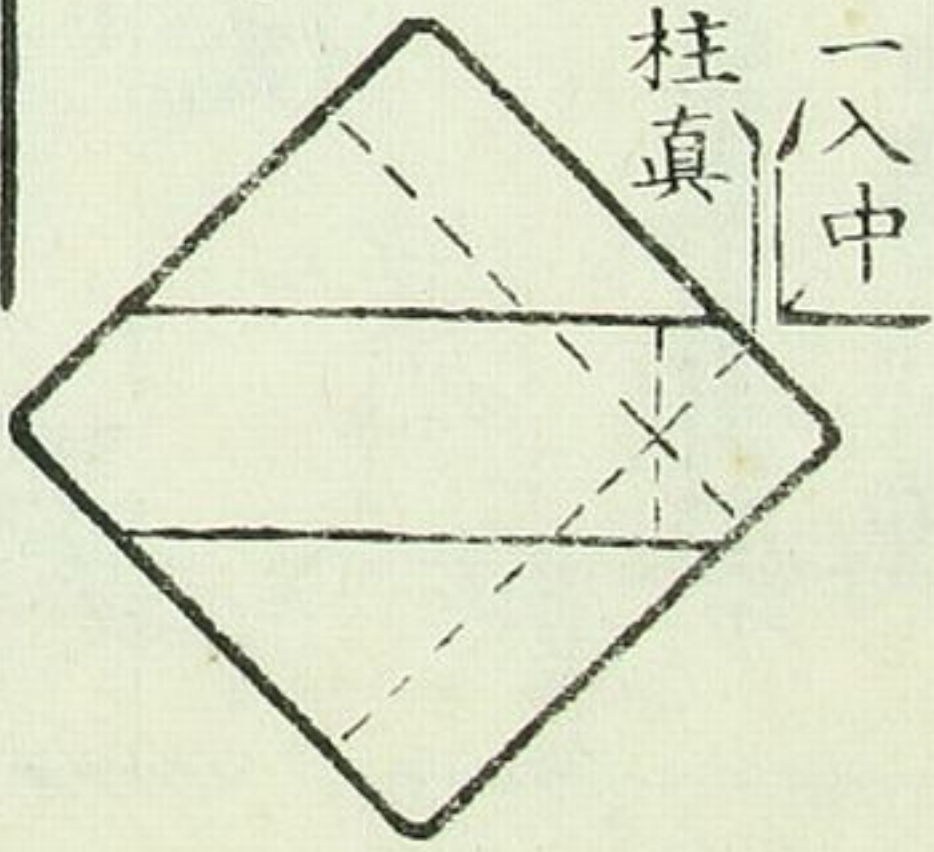
真曲尺の貫を長さ取所と
 心得て墨を致すべく也



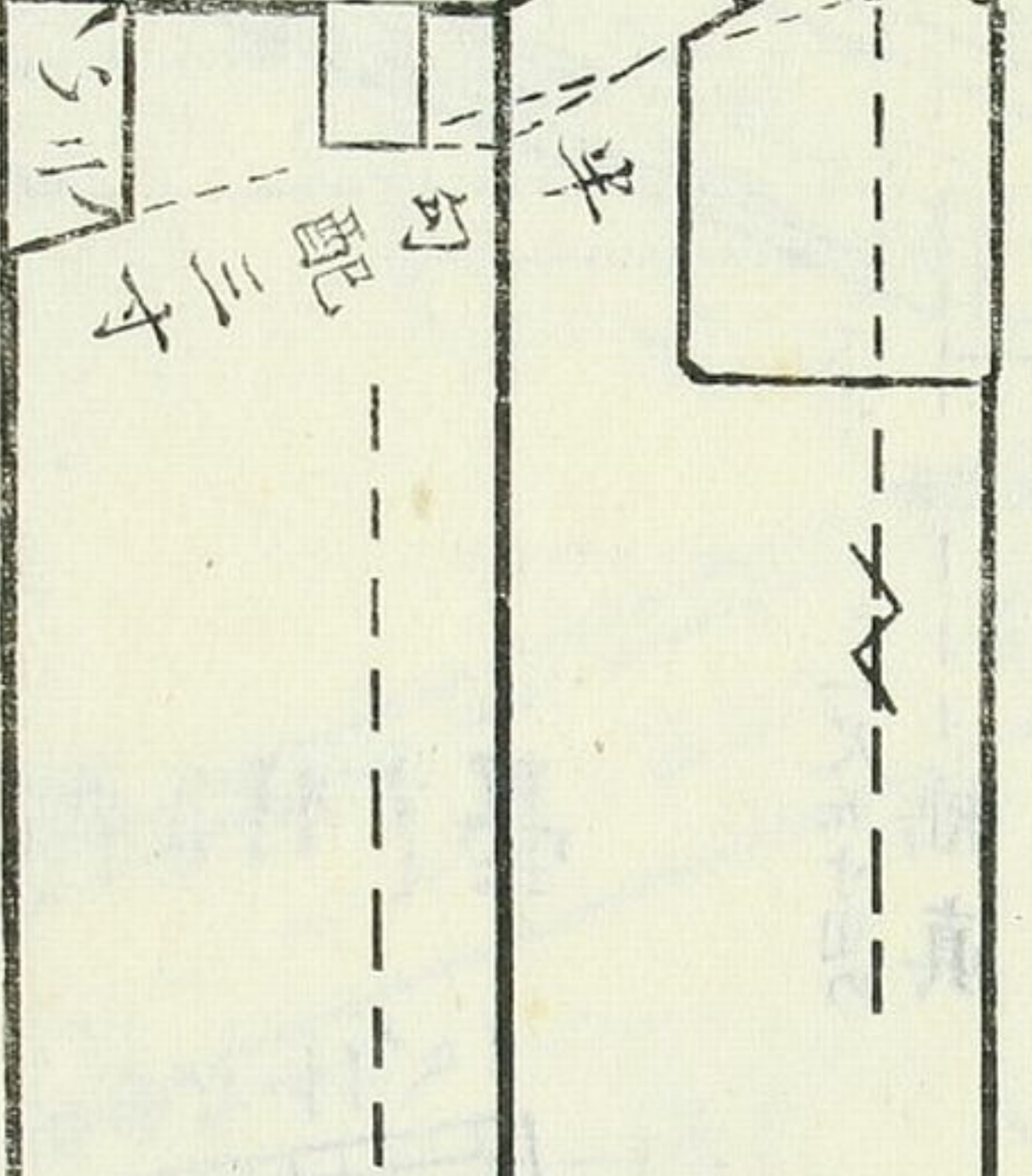
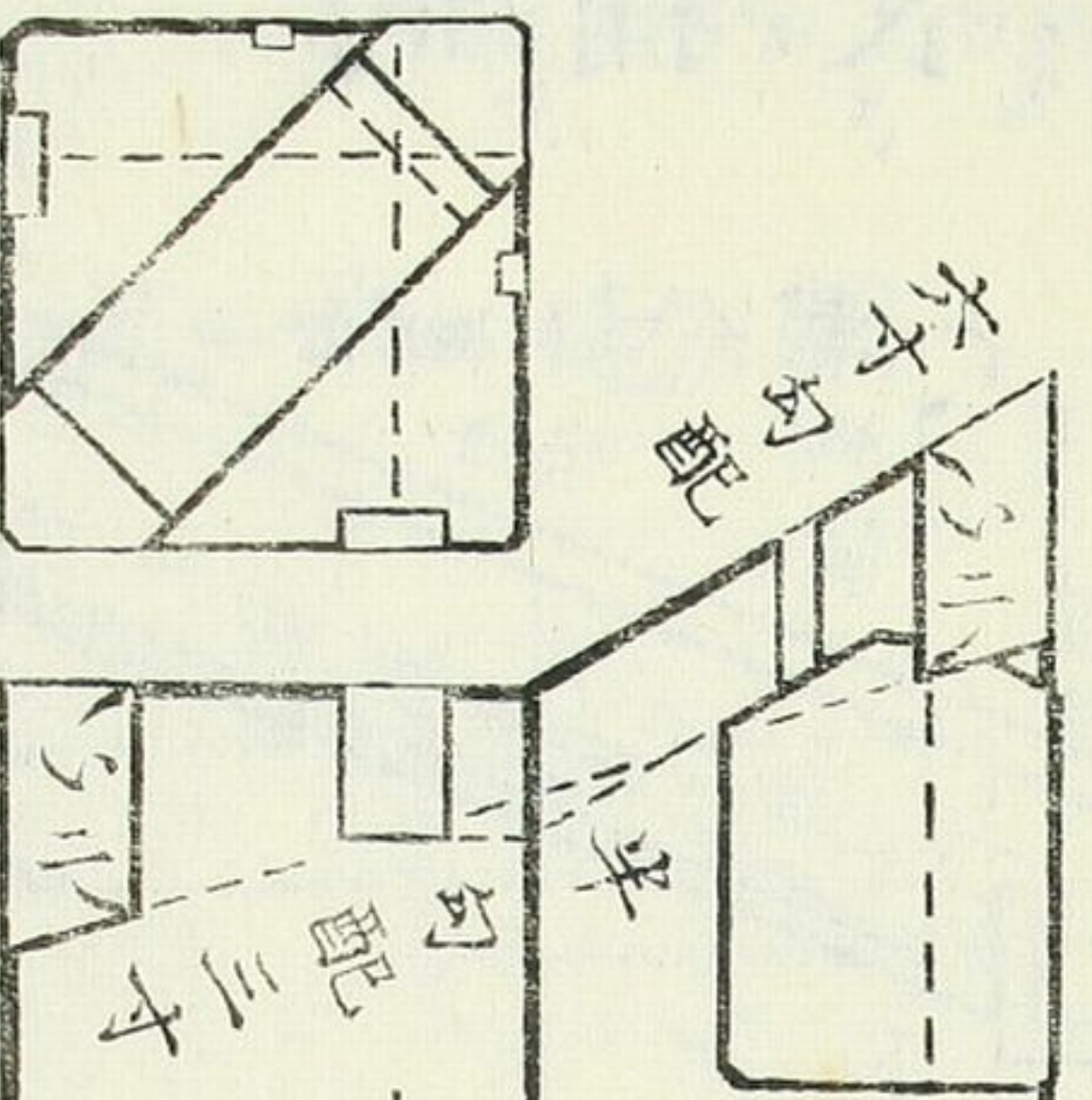


定規柱棒桶落懸圖

一榑六寸勾配こしほいして桶おけ勾配こしほいを裏目壹尺うらめ六寸あり桶鼻おけな伐様うらめを六寸うらめ裏目五寸あり但たが四寸勾配こしほいのときを四寸うらめ裏目五寸何いづれも時の勾配こしほい寸を伐墨うらめして長手あてを何も裏目五寸あり



同落懸墨



見付

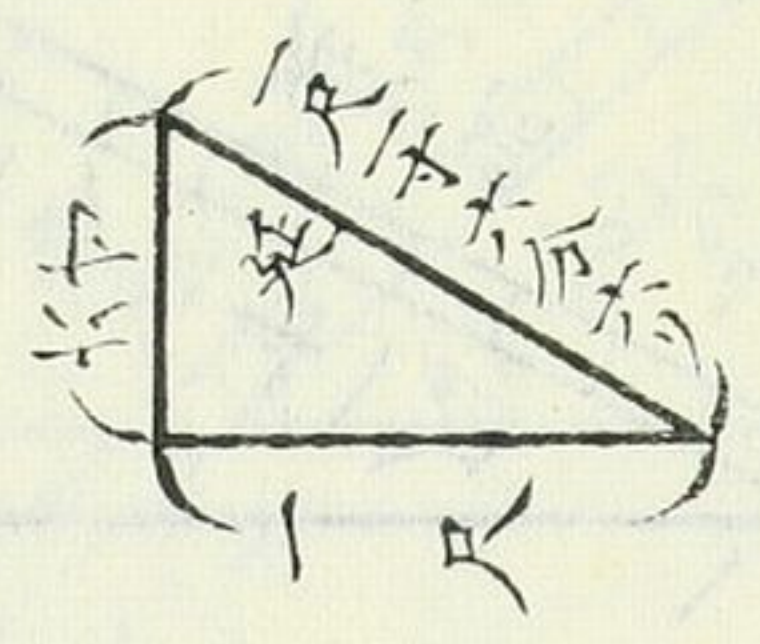
みあて

一落懸おちり下の墨仕様すしを柱はしらの拵こしら墨すしより六寸勾配こしほいの榑成おけせいを引出ひきだし置おき
 (い)と(い)二に寫うつすべし下したばを半勾配はんこしほい何も無振なげを半勾配はんこしほいあり

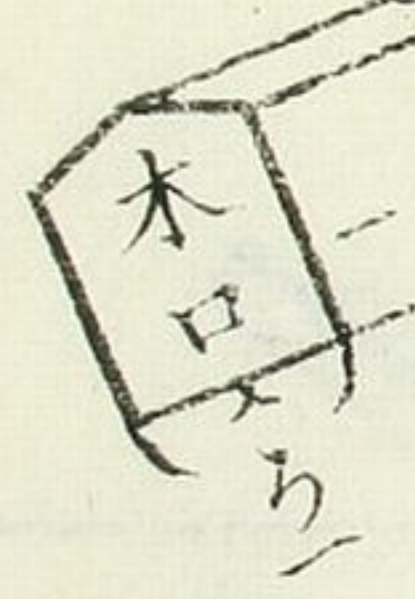
同桶長量様 脊高取様

尺ね曲延同

此延を
榑配付上ば
鼻隠見付留
廣小舞下は留
各に遣あり



入中
水中
出中



一桶長と量様を六寸と
裏目一尺也但四寸勾
配の時を四寸と裏目の
壹尺何も無振と此
理方あり

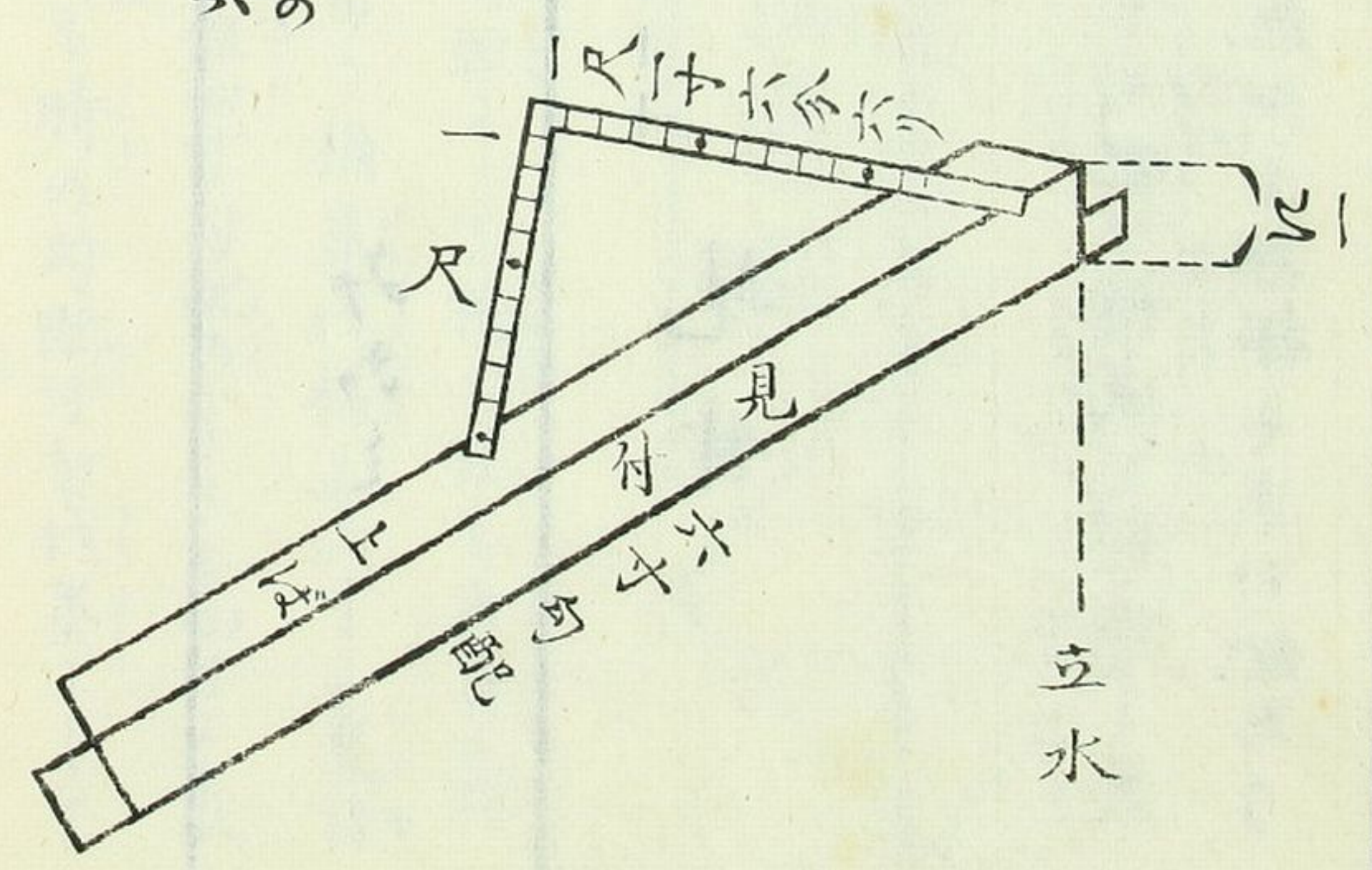
榑真
らたさ

同桶長量様

榑下は裏目
真を配

一尺五寸間の
榑真

同榑配付墨

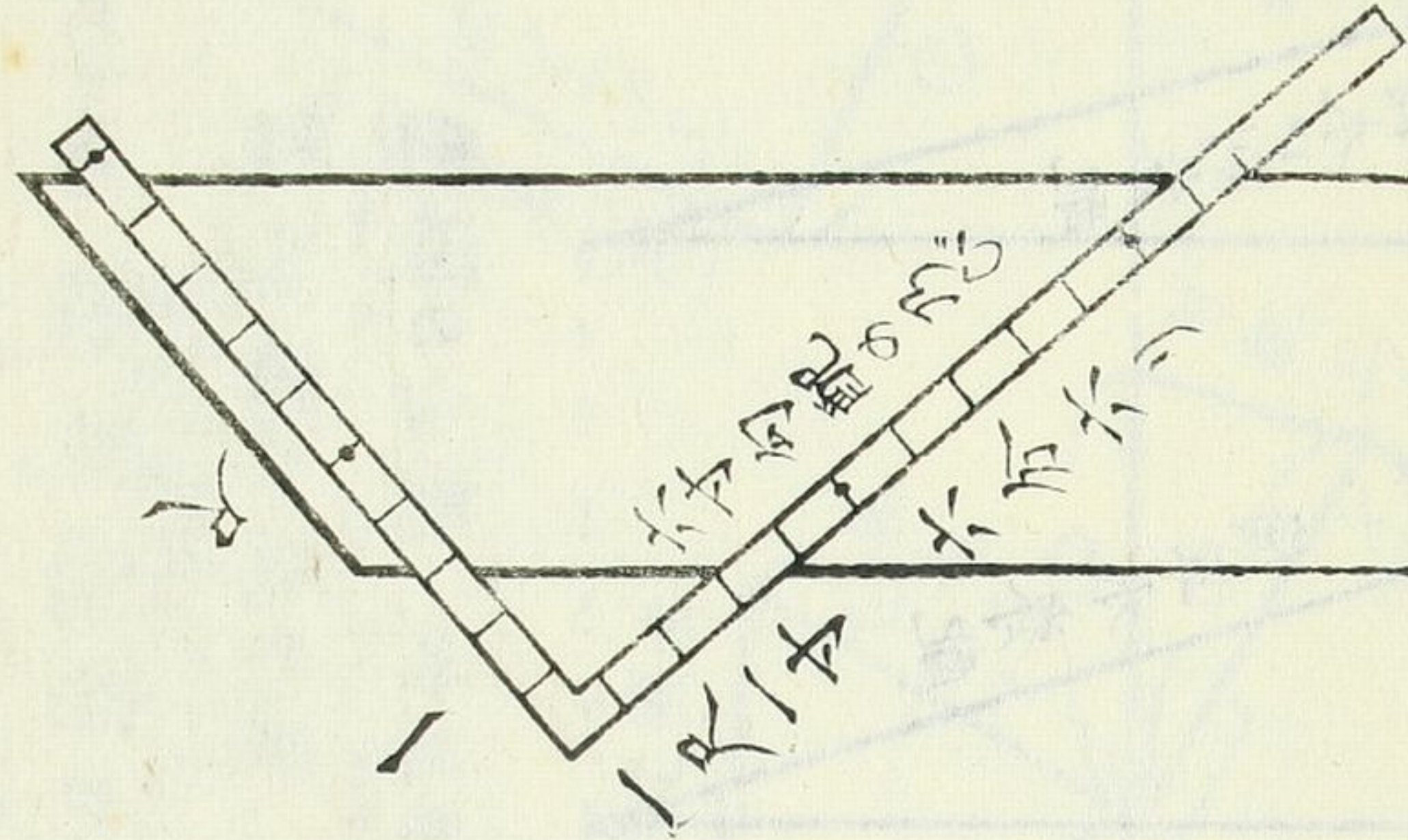


立水

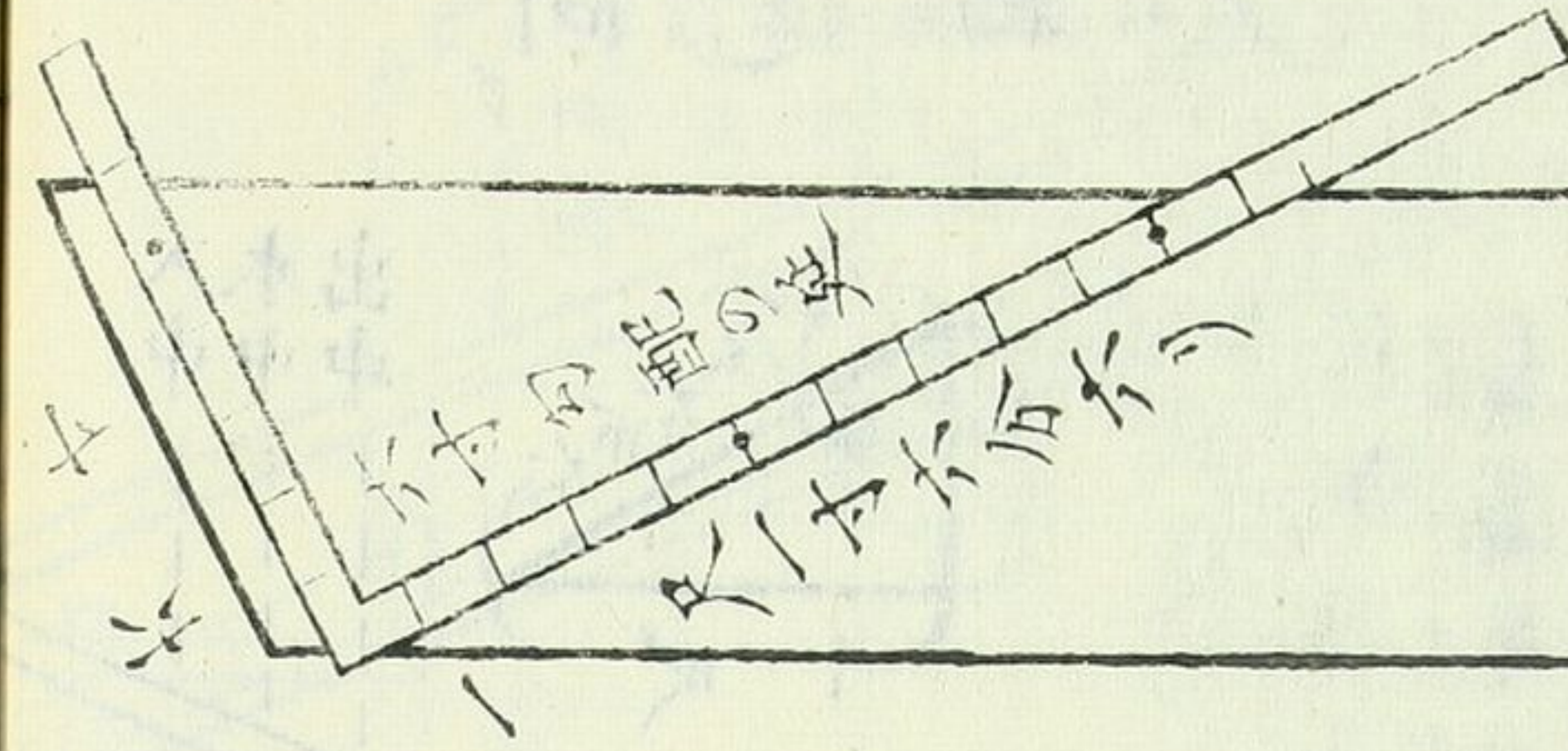
大工初心音角不糸巻之

七

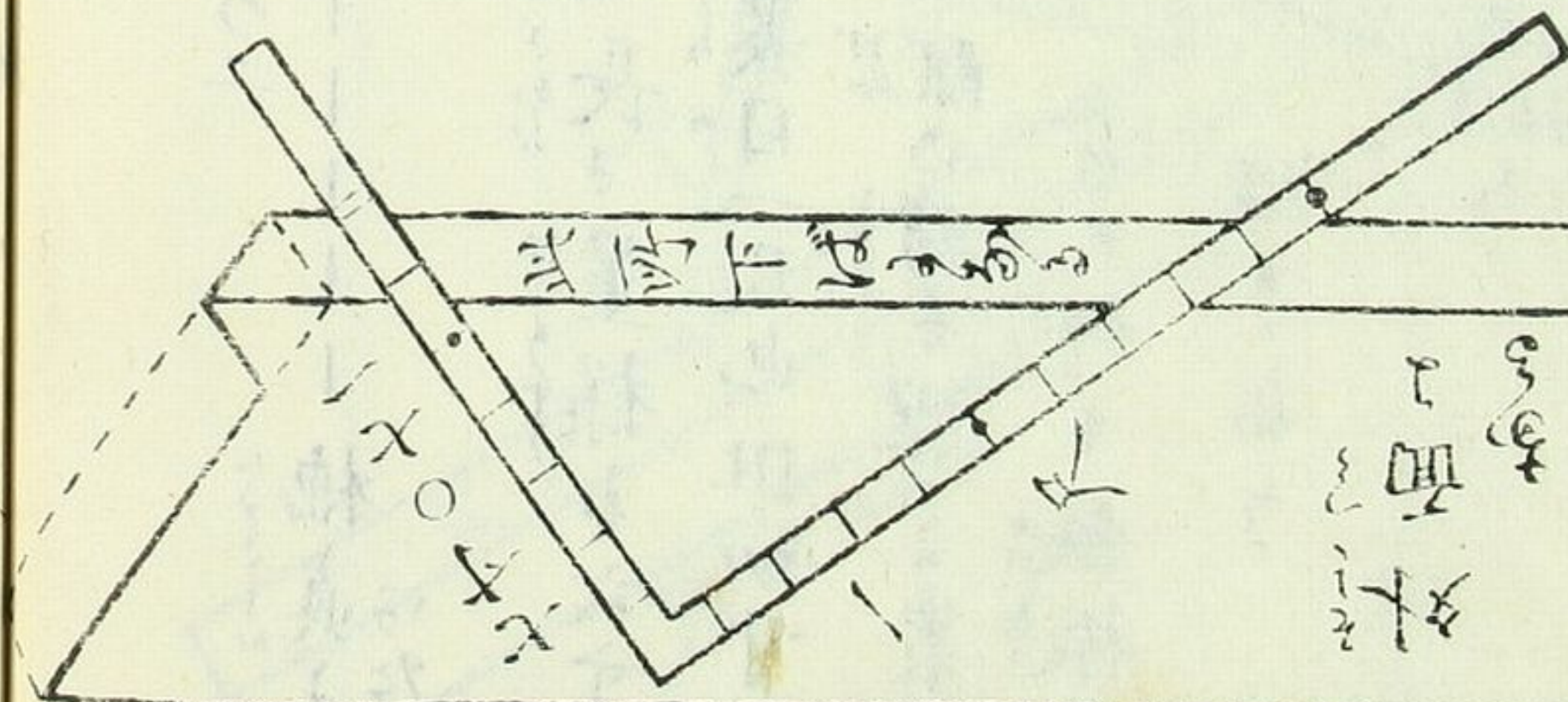
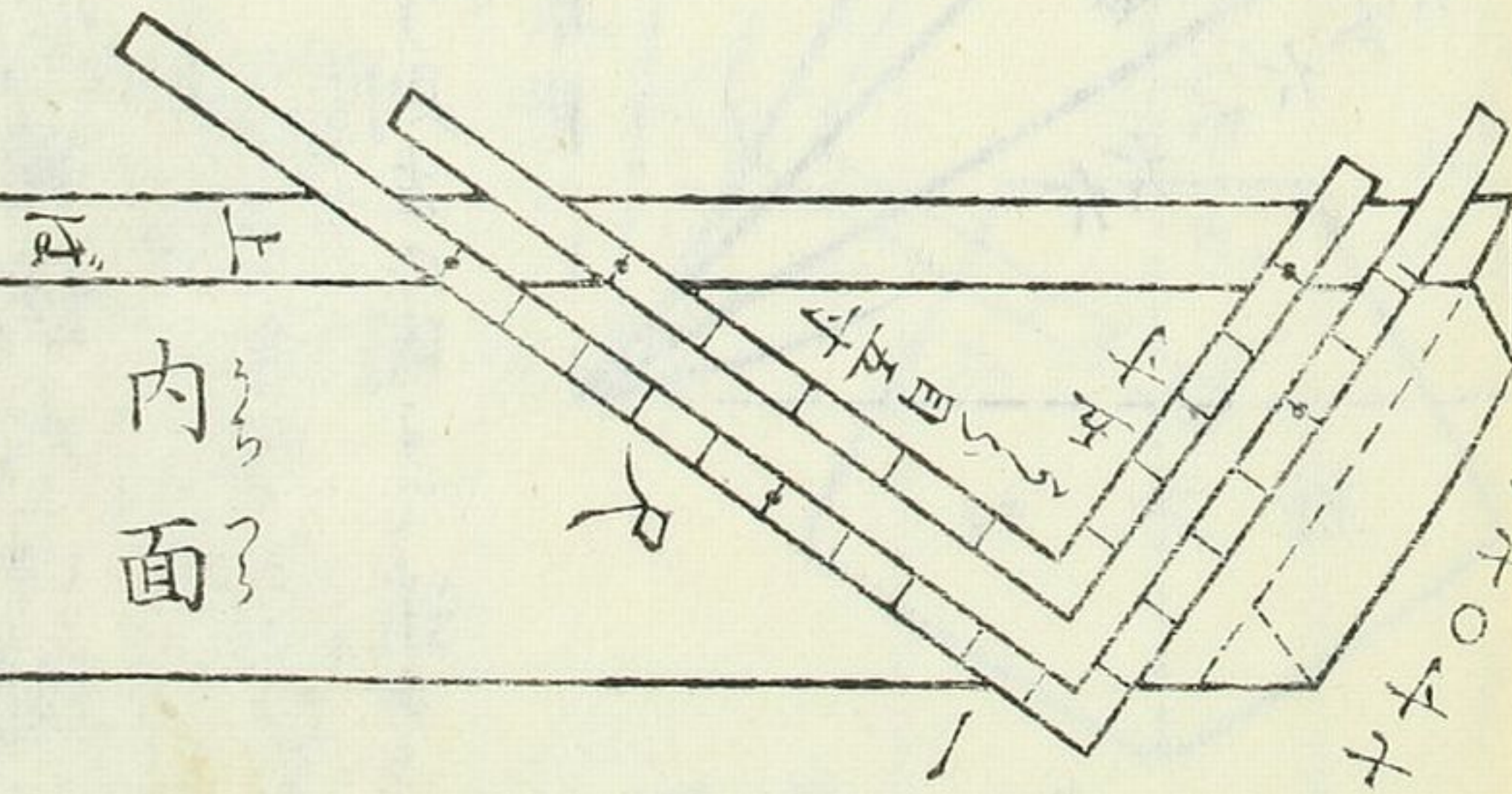
留端下舞小廣同



留向隱鼻同



尺曲留の並様隅挿研ガ藥同

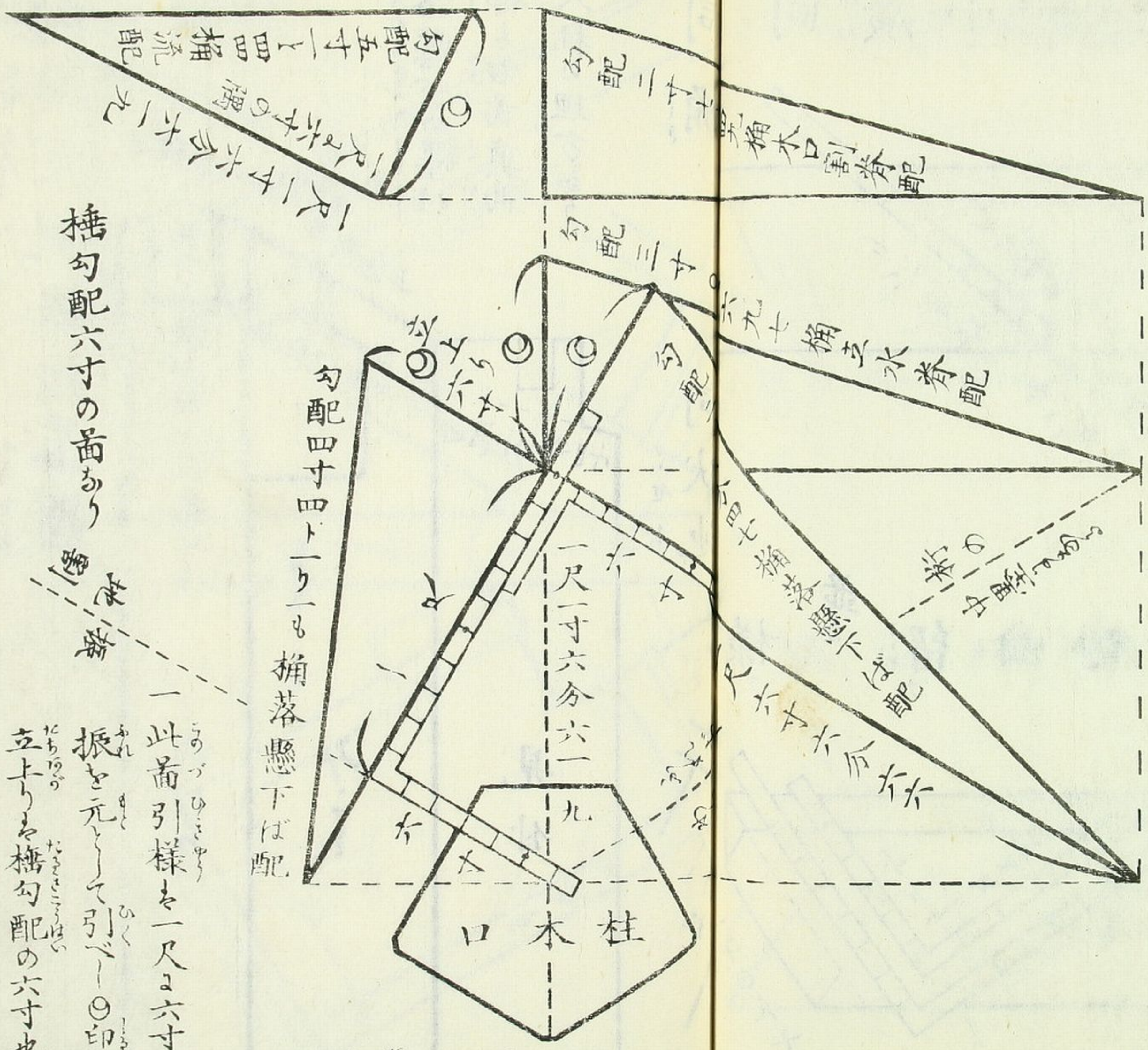


大工初心置角初級卷之一

大工初心置角初級卷之一

一尺二寸六寸の 振地 楠曲尺遣 并定規柱木口圖

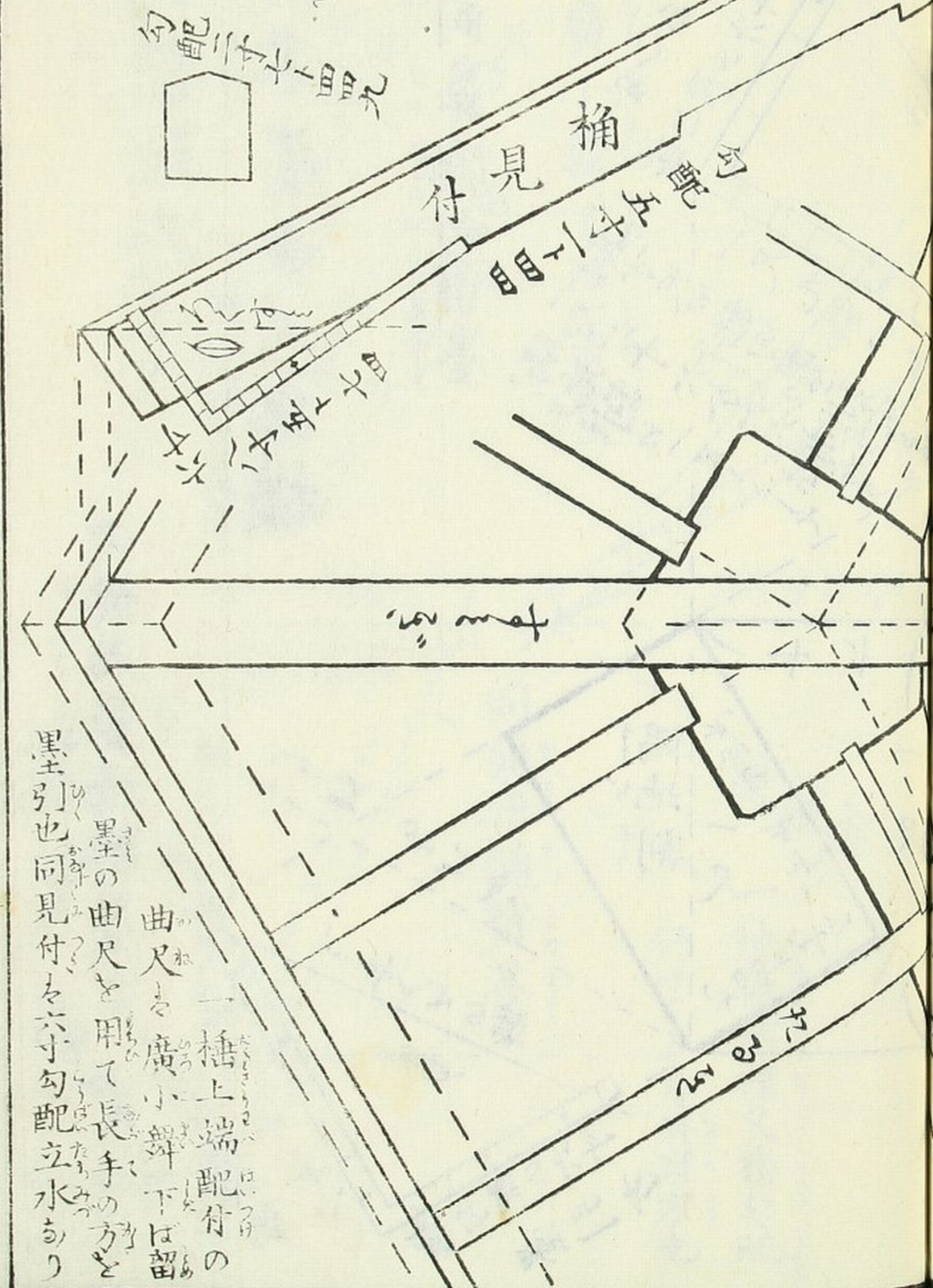
同流の勾配 各此振地割より出す則左の圖より遣あり
同水口割脊勾配 同立水脊勾配
同水口割脊勾配



此苗引様を一尺二寸六寸の
振を元として引べり印の
立上りと橋勾配の六寸也

大工心算角材巻之十

同桶木口割



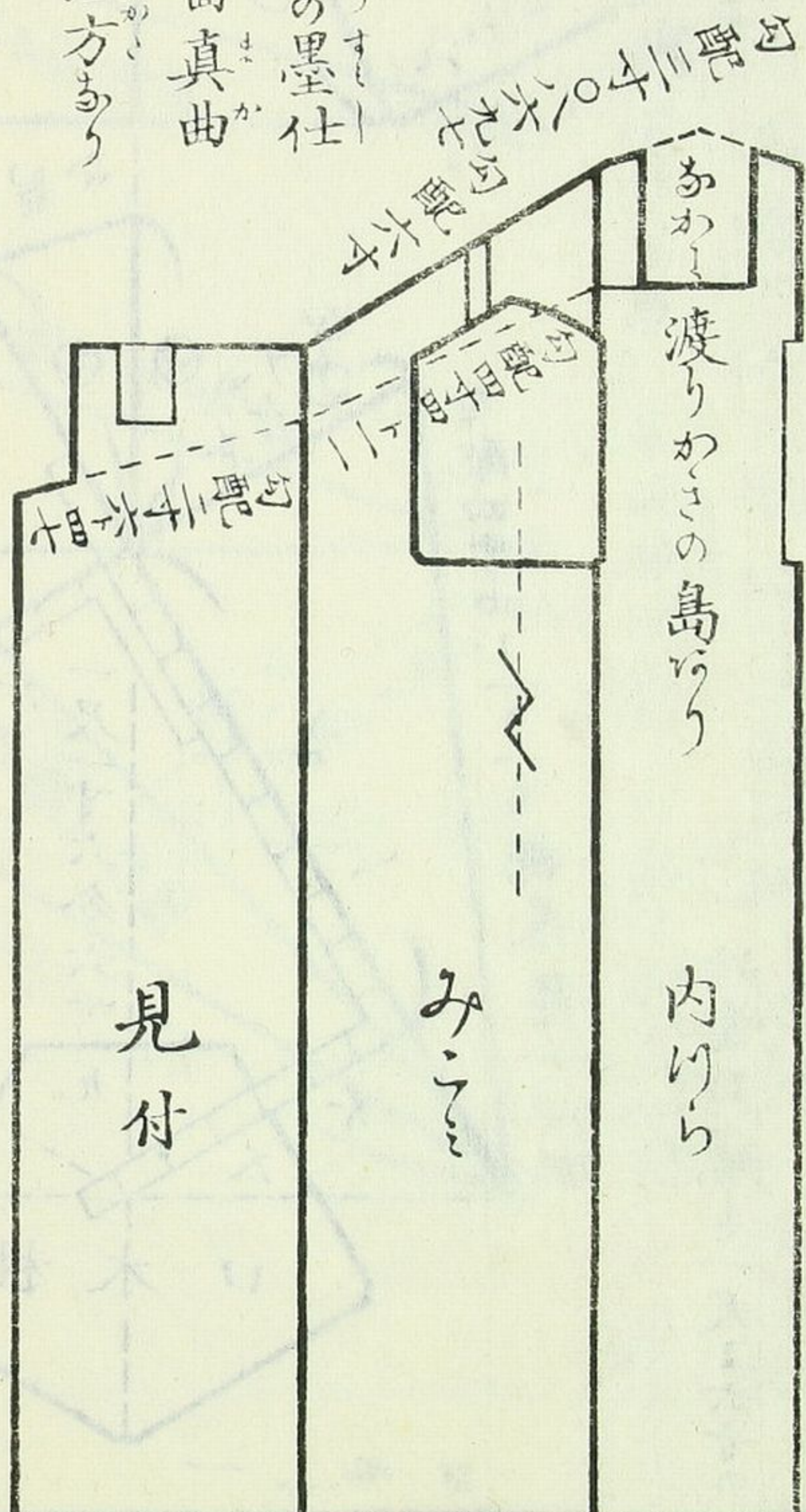
墨引也同見付を六寸勾配立水あり
 墨の曲尺を用て長手の方を
 曲尺を廣小舞下は留
 一棹上端配付の

同桶

同伏地

下

一落懸下の墨仕
 様と右面真曲
 尺柱の理方あり



同辨定規柱桶落懸

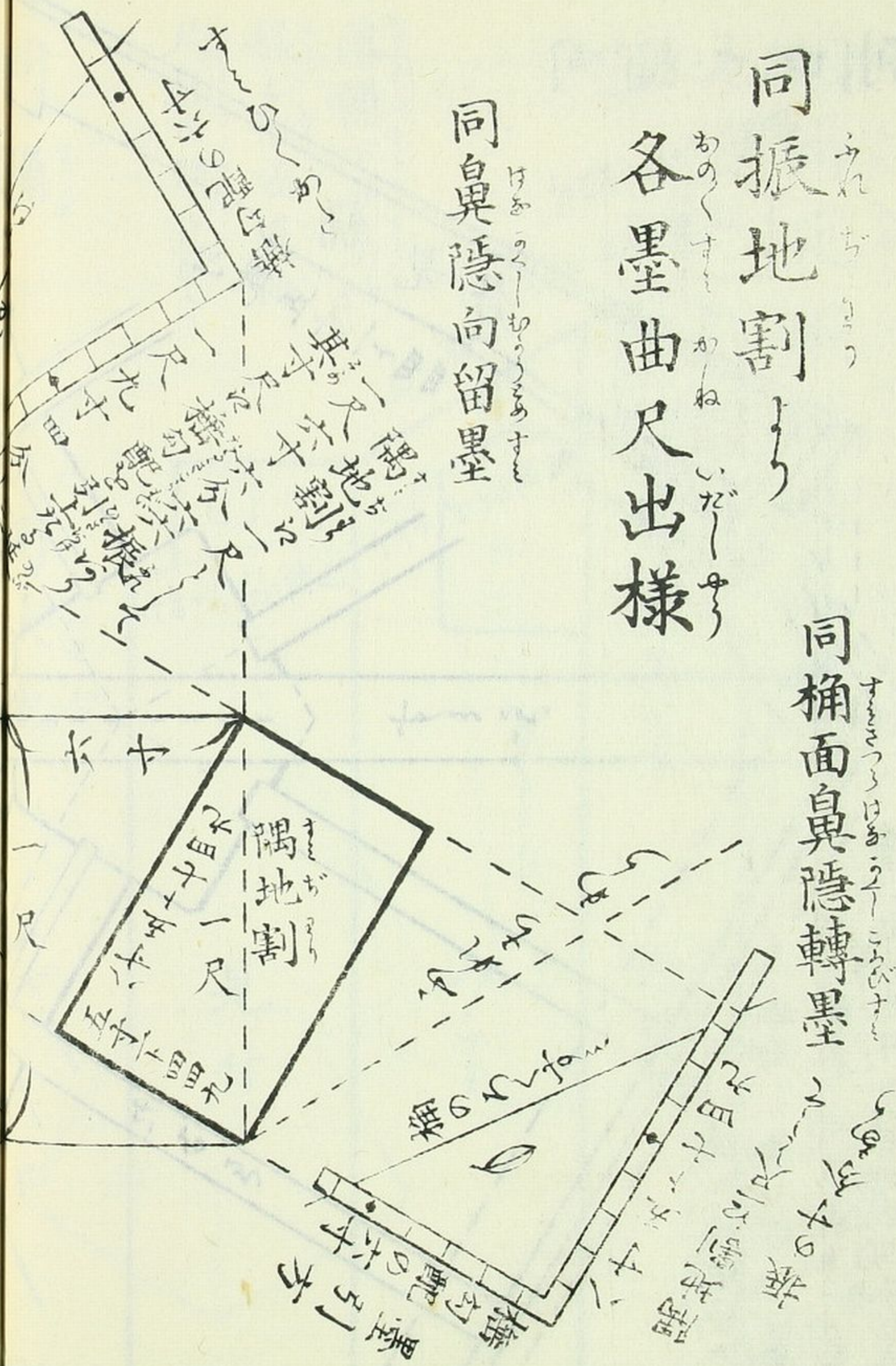
くせぢやうをけりすまじむちり

大工初ノ目角糸線考

同振地割
各墨曲尺出様

同鼻隠向留墨

同桶面鼻隠轉墨

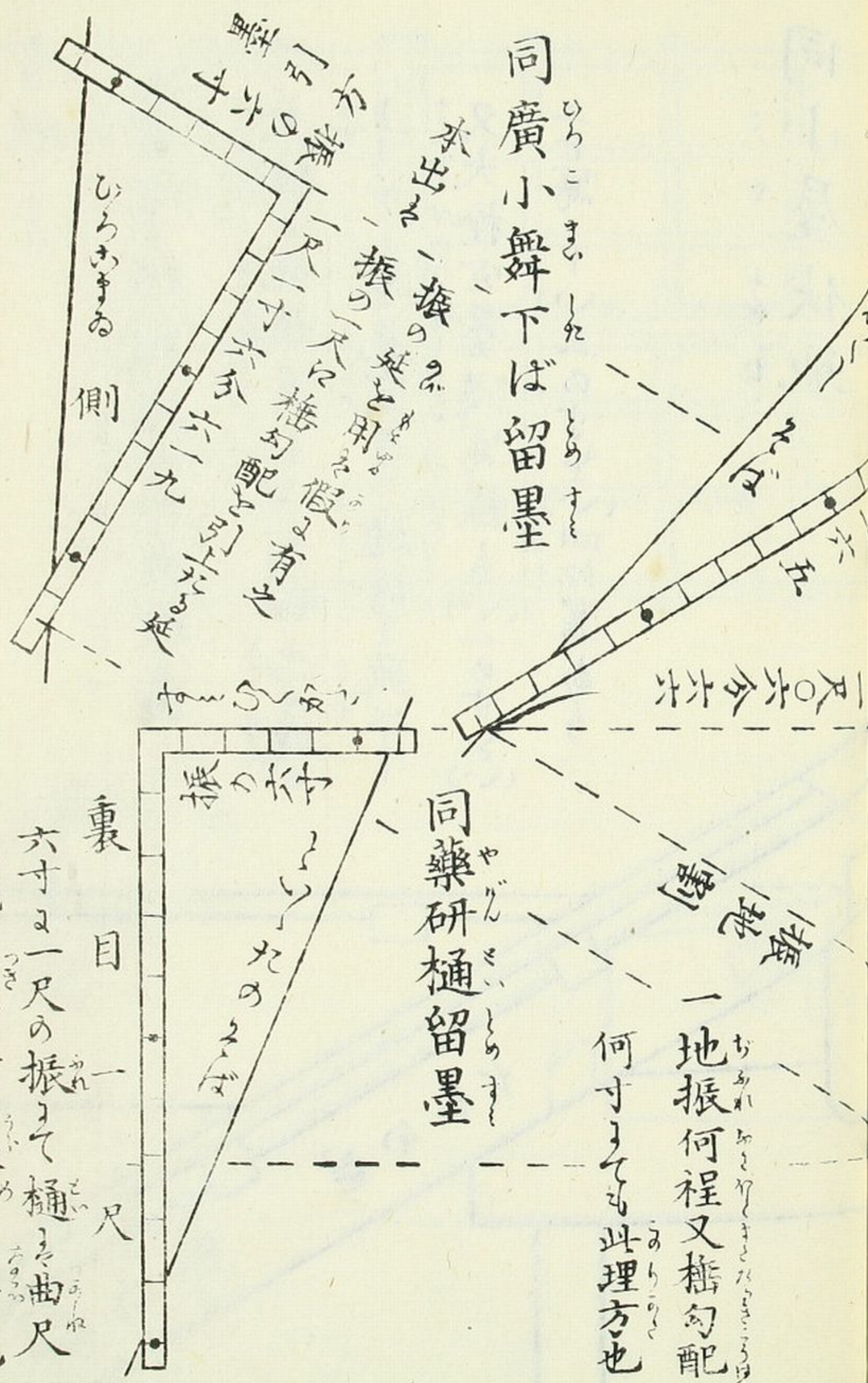


同廣小舞下ば留墨

同藥研桶留墨

裏目一尺
六寸と一尺の振りて桶と曲尺
勾配を付一尺を裏目と直す也

一地振何程又桶勾配
何寸とて此理方也



方形わくじょうにて

合掌作地棟鼻大栓あがらつかうづらうちむねはかたいせんづ面

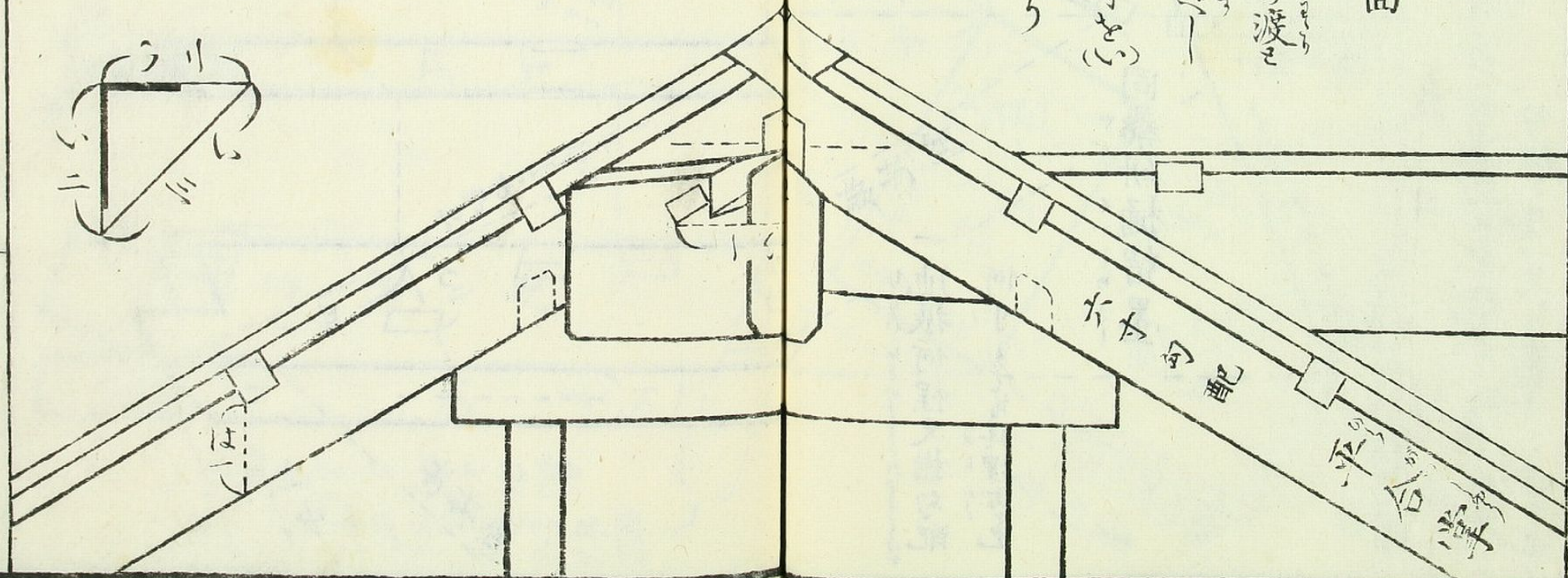
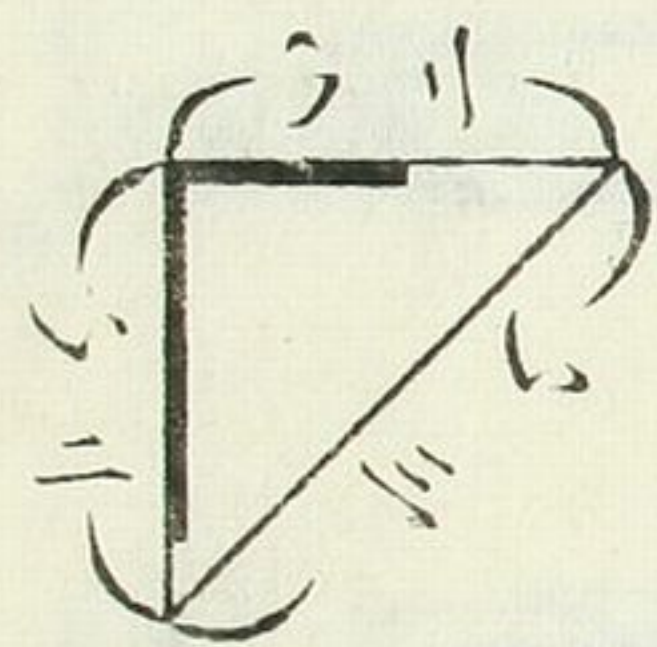
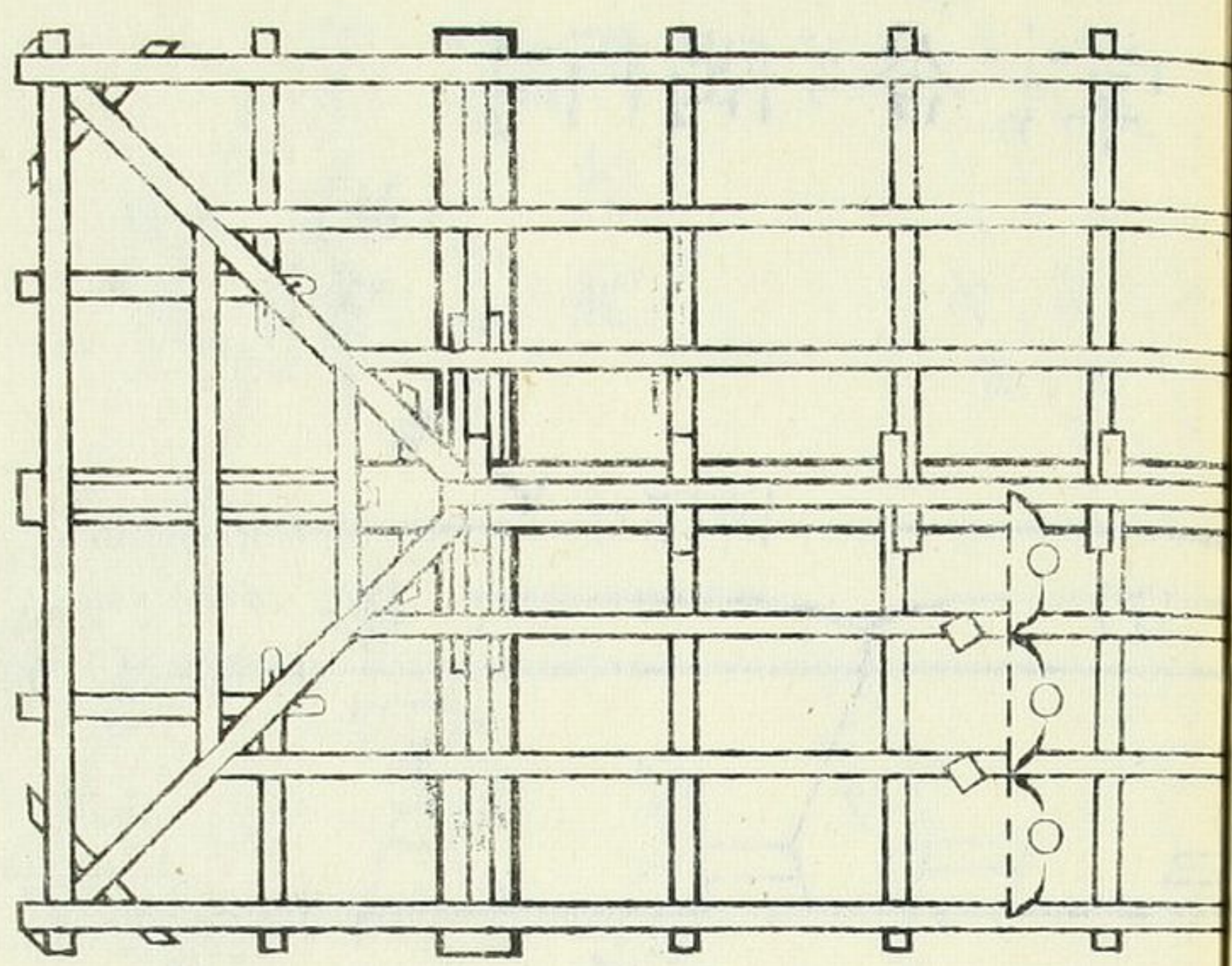
一 大栓おおいせんと地棟ちむね真まより大栓おおいせん迄までの渡わたを

上あり下くだりを見定みまめて通所とうじゆ致いたす

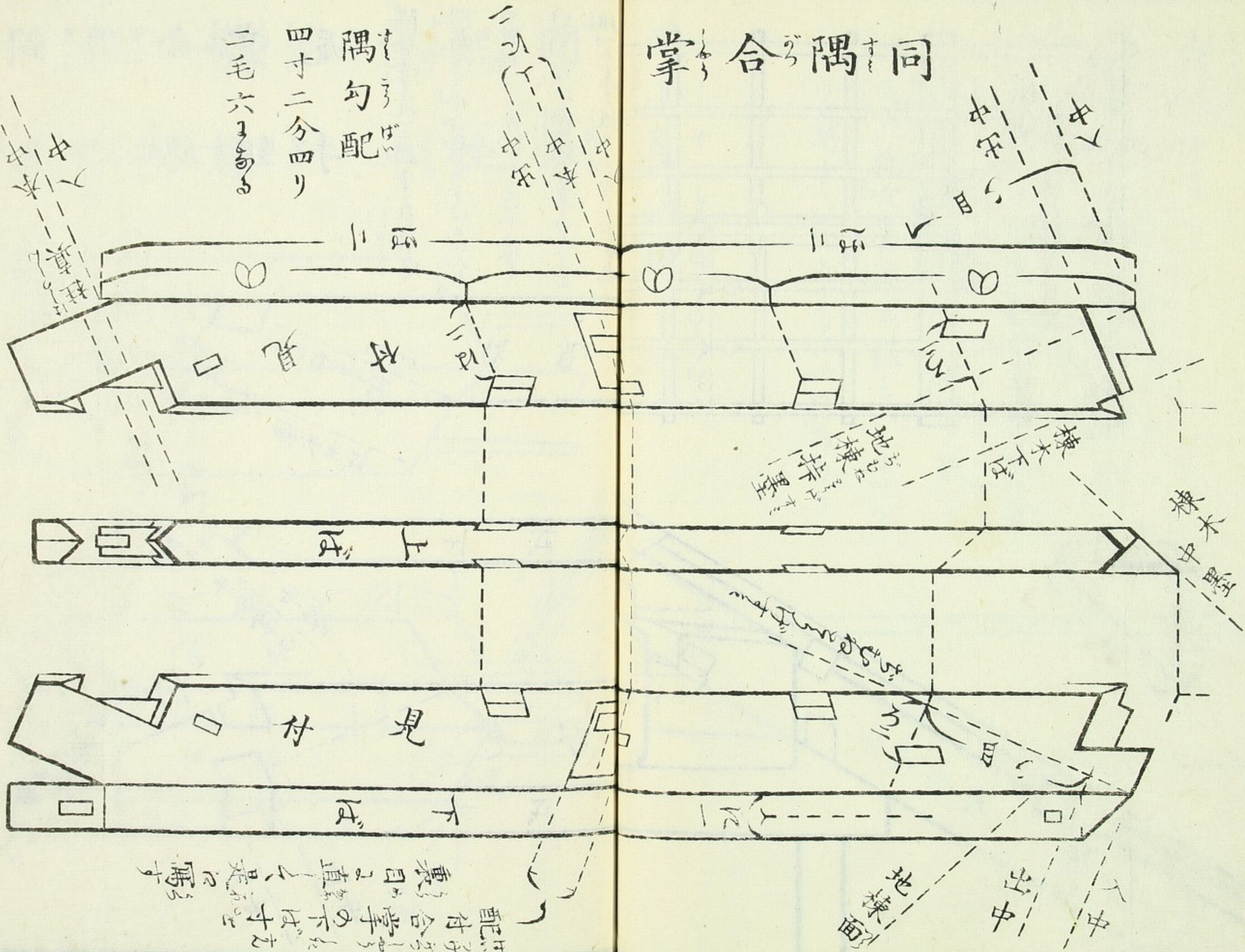
又大栓おおいせん穴あな墨渡すみわた馬うま様さまと一いの寸すを

二にに寫なし三さんの寸すを四よに寫なし

同こ小屋や伏地ふせぢ



同隅合掌



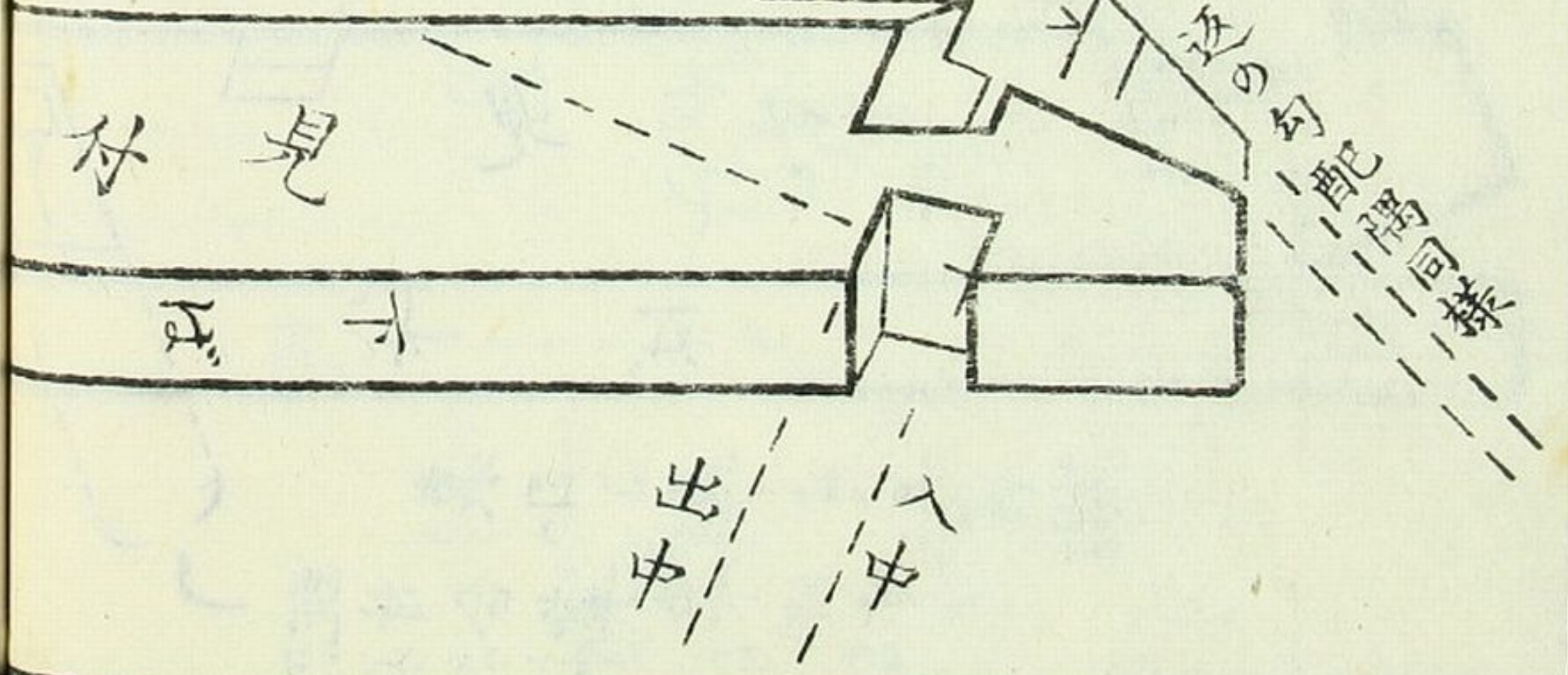
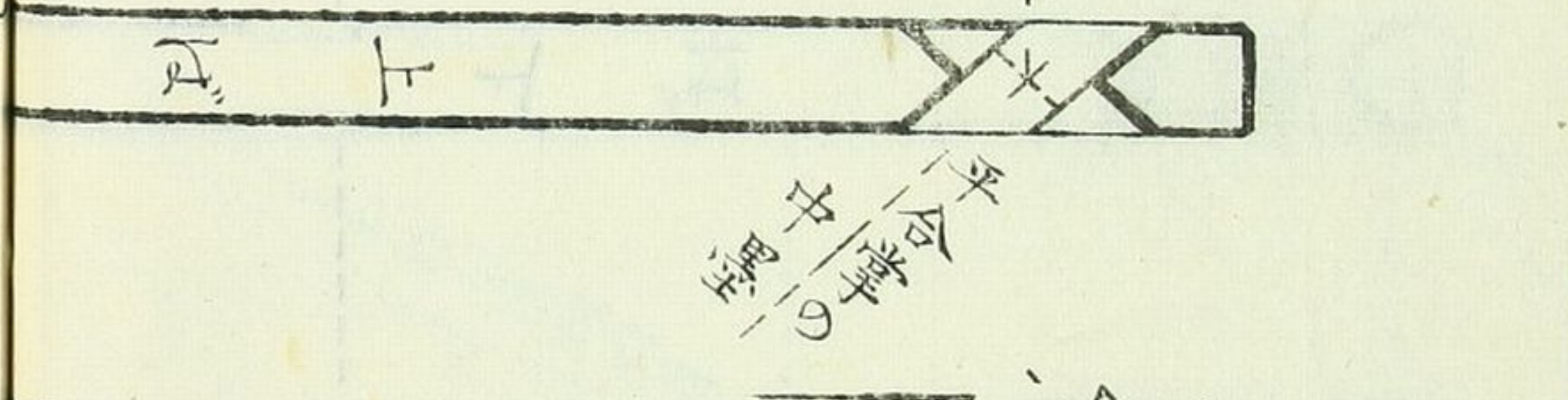
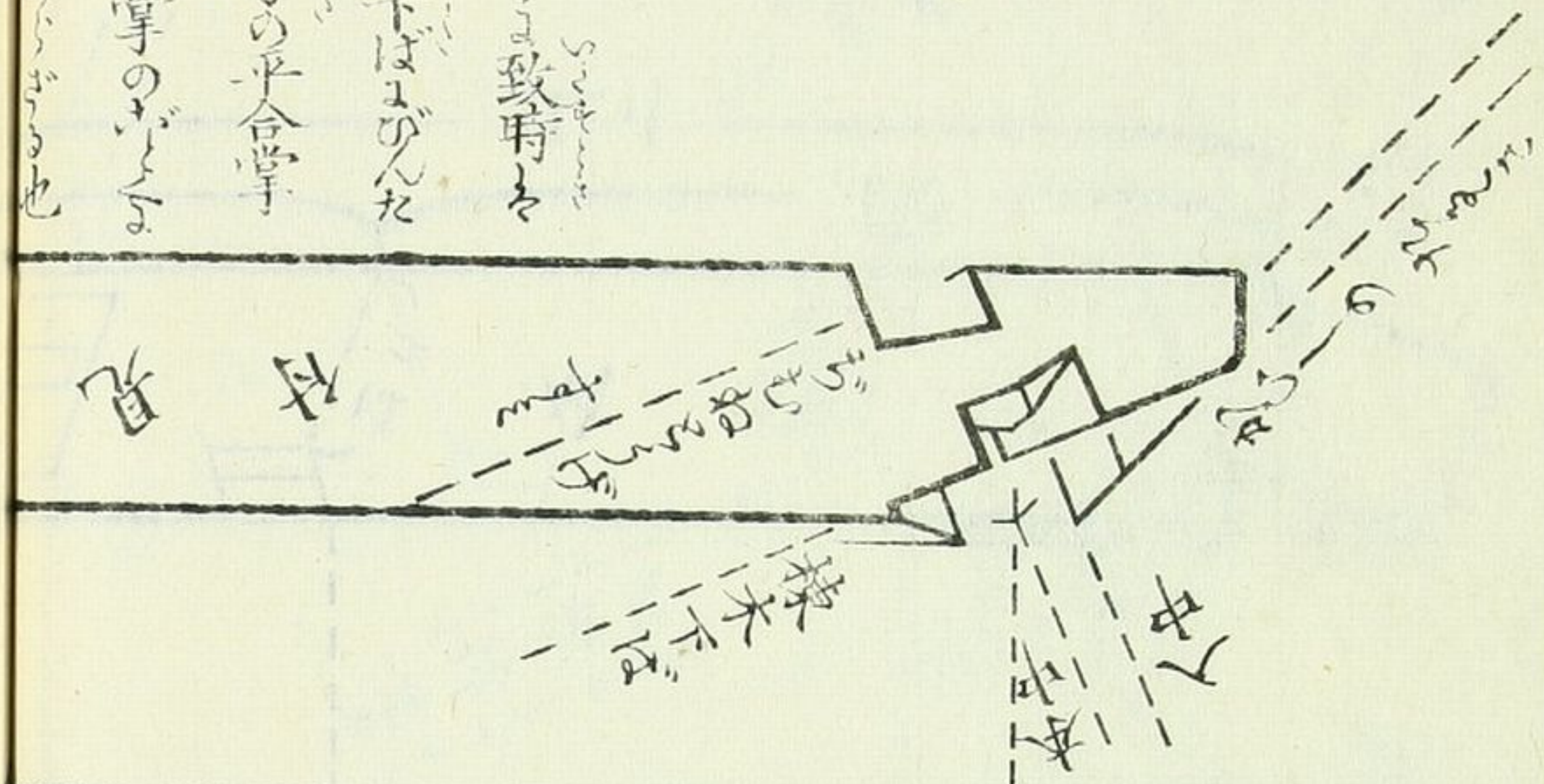
隅勾配
四寸二分四リ
二毛六三毛

配付合掌の下付は
裏目直ぐ是に馬す

同隅合掌尻

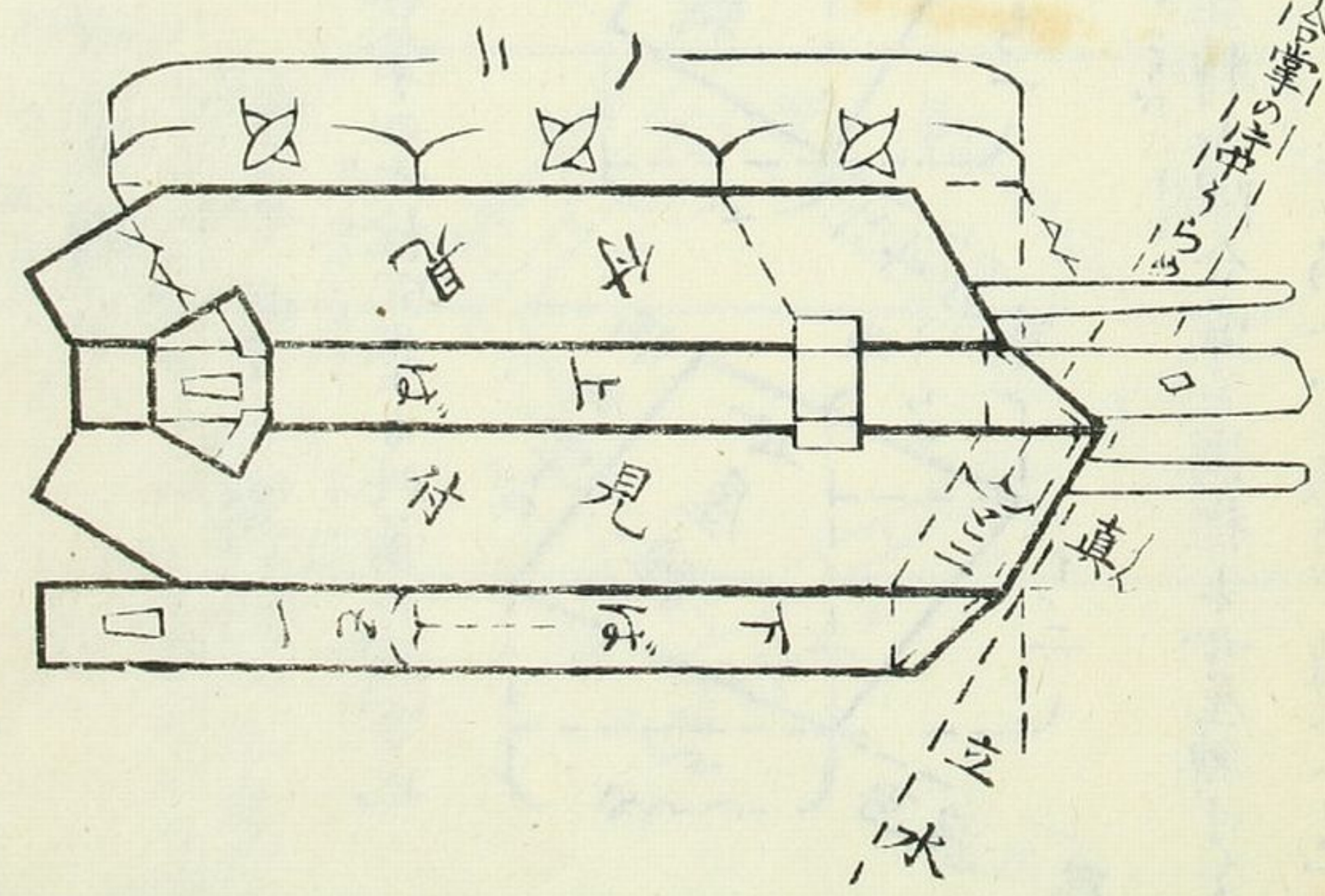
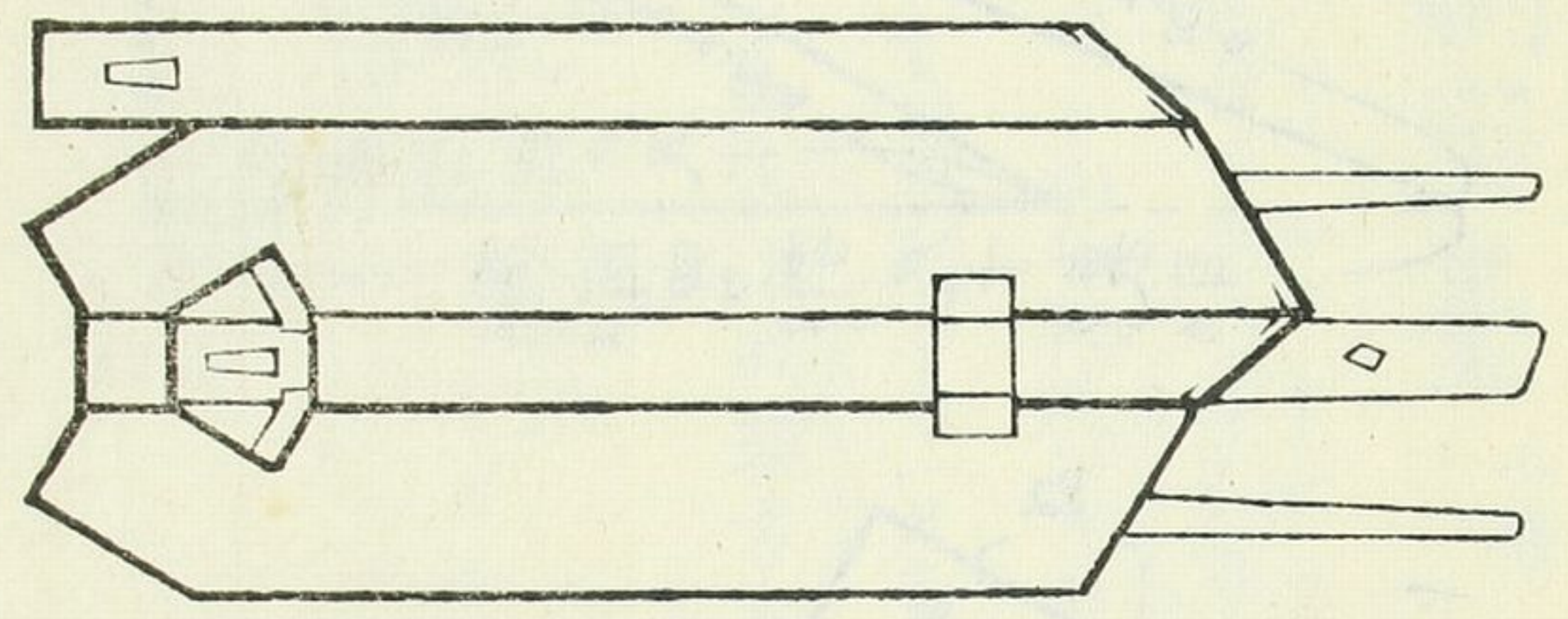
又仕様組手

一隅合掌尻と組手は致時を此尻にて平合掌の下はよひたの付様なる故に此方の平合掌は留上は口懸る平合掌のよひた組手より組立はあはらざる也

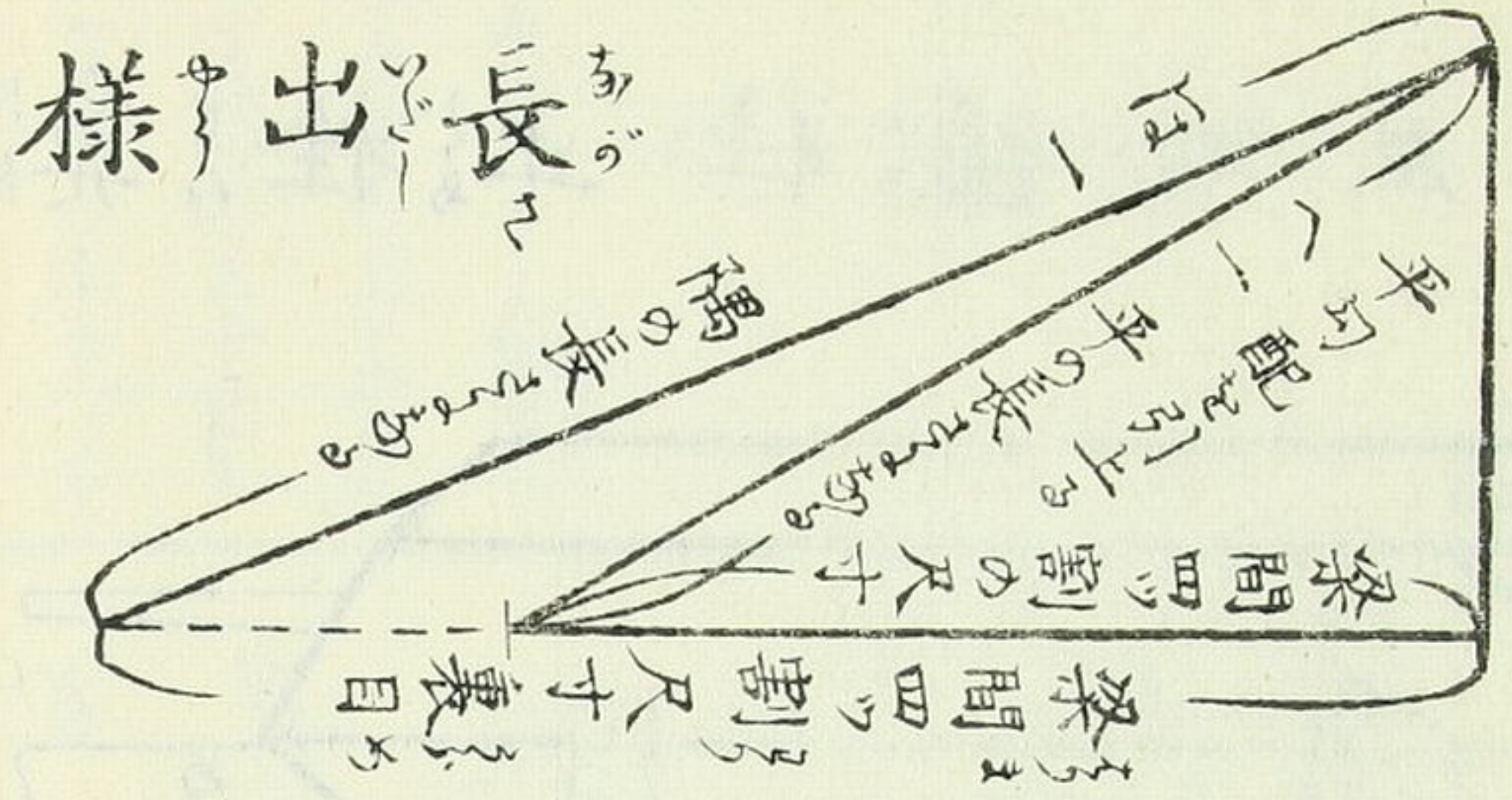


同配付合掌

鼻栓止仕様左右



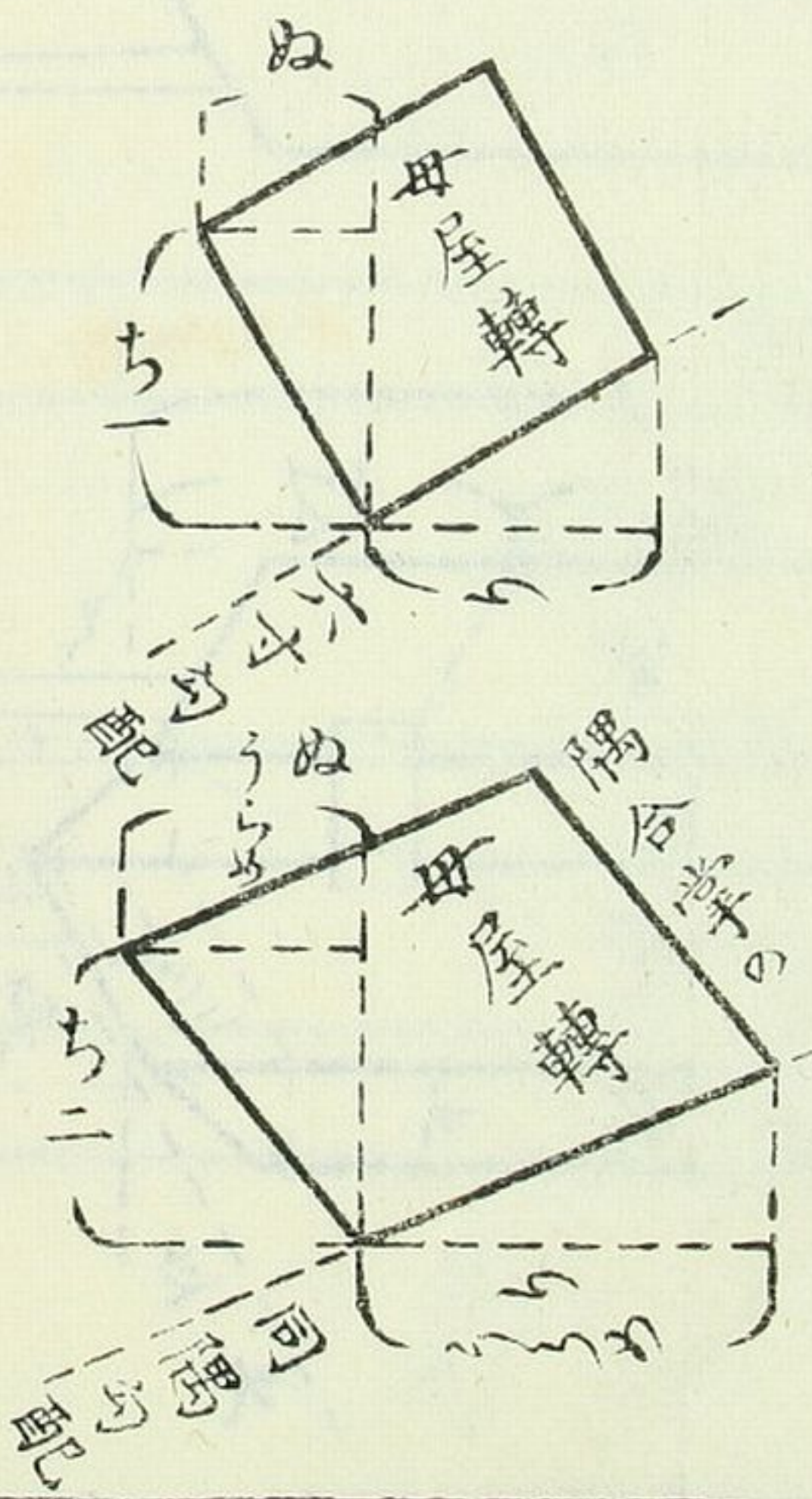
同隅平合掌



同母屋轉

隅合掌に馬様

隅合掌の大柱尻墨も此箇の理方也

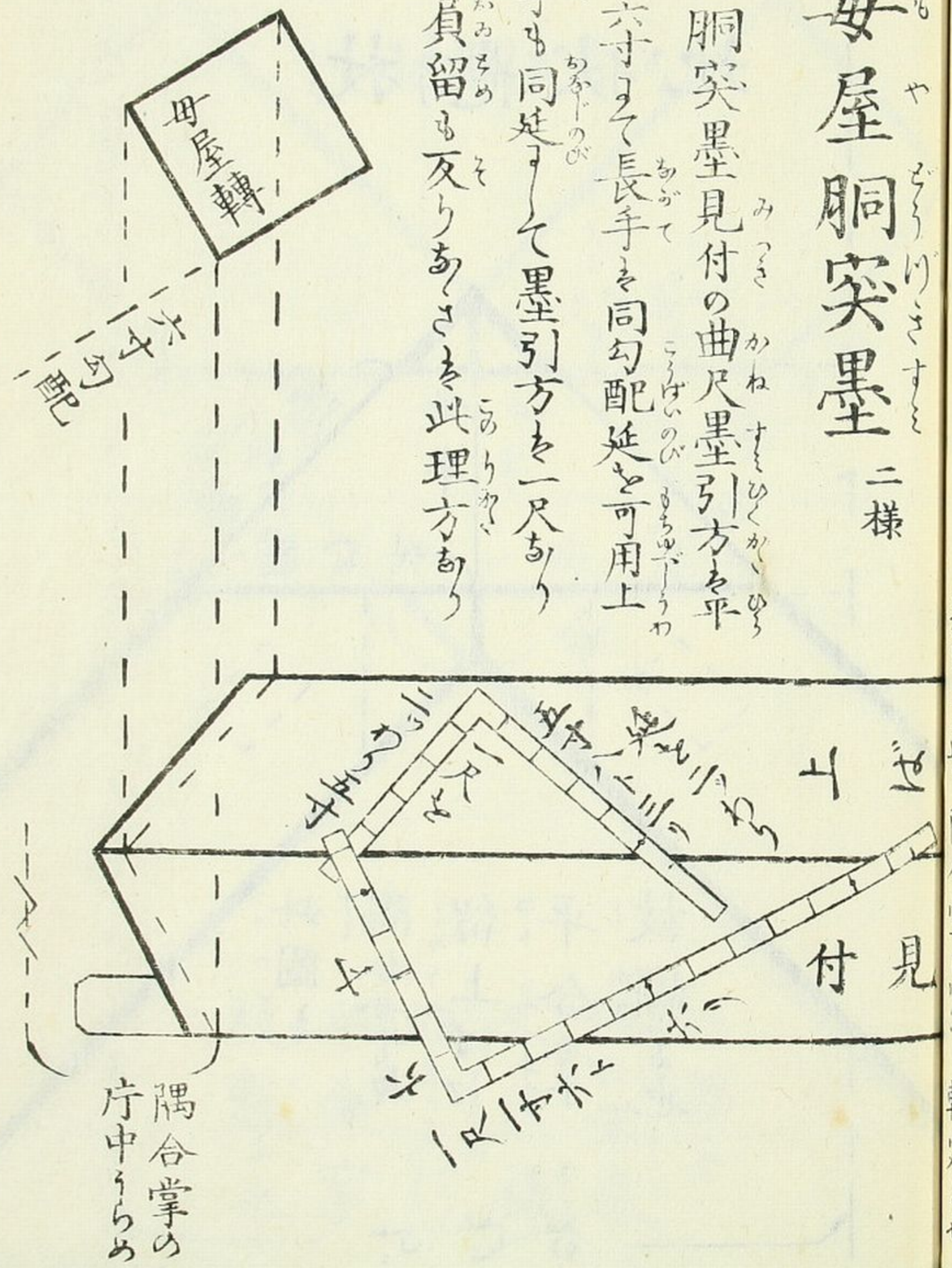


一母屋轉を隅合掌に馬様と母屋轉寸を裏目より直して隅合掌に馬様轉定る也

同母屋洞突墨

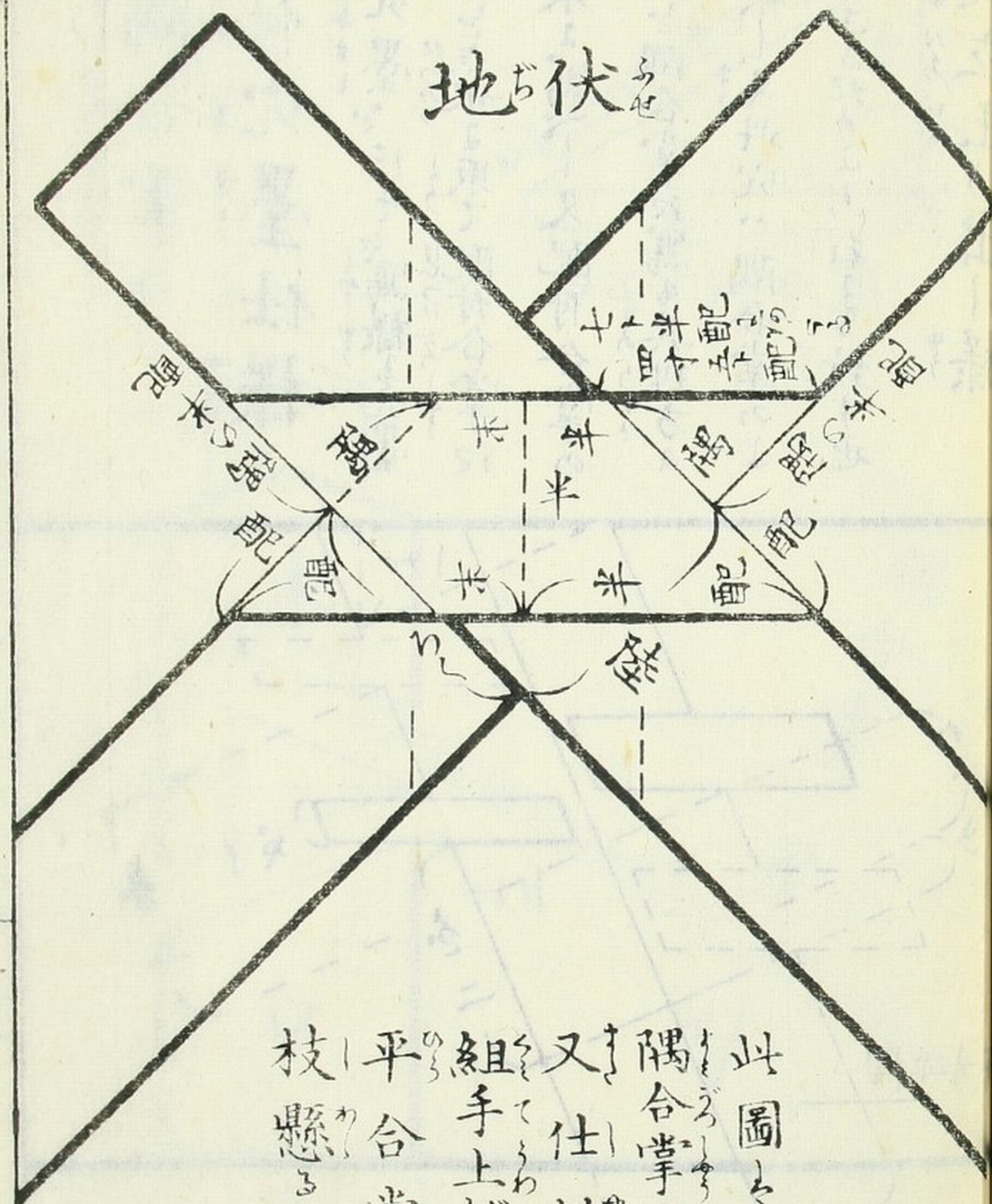
二様

一母屋洞突墨見付の曲尺墨引方を平
 勾配の六寸より長手を同勾配延と可用上
 ば長手も同延して墨引方を一尺あり
 又茅負留も及りあさき此理方あり



隅合掌の序中よりあり

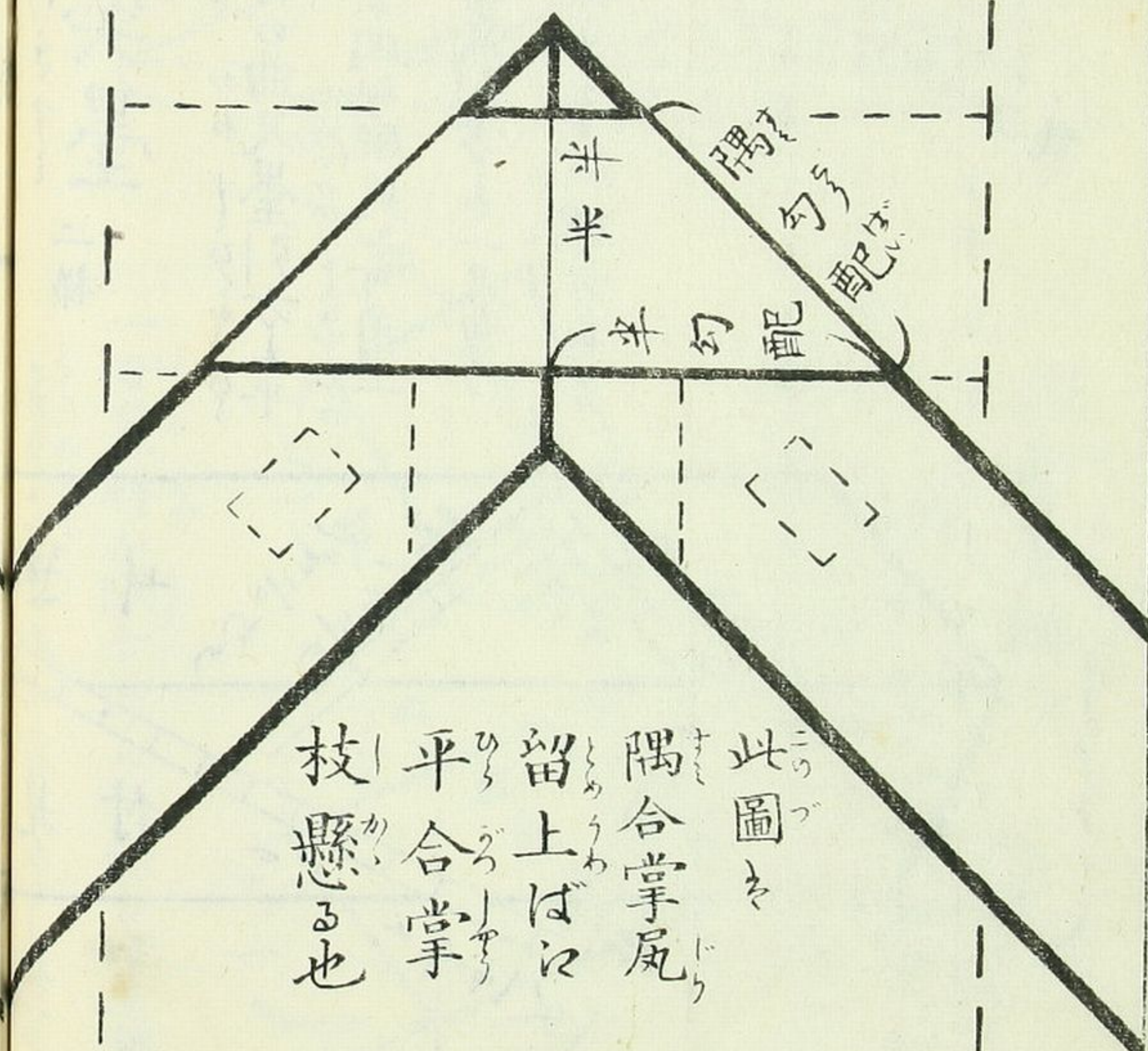
懸枝端上手組同



此圖又仕様
 隅合掌尻
 組手上げに
 平合掌
 枝懸る也

端上留同

地伏懸枝



此圖隅合掌尻
 留上はに
 平合掌
 枝懸る也

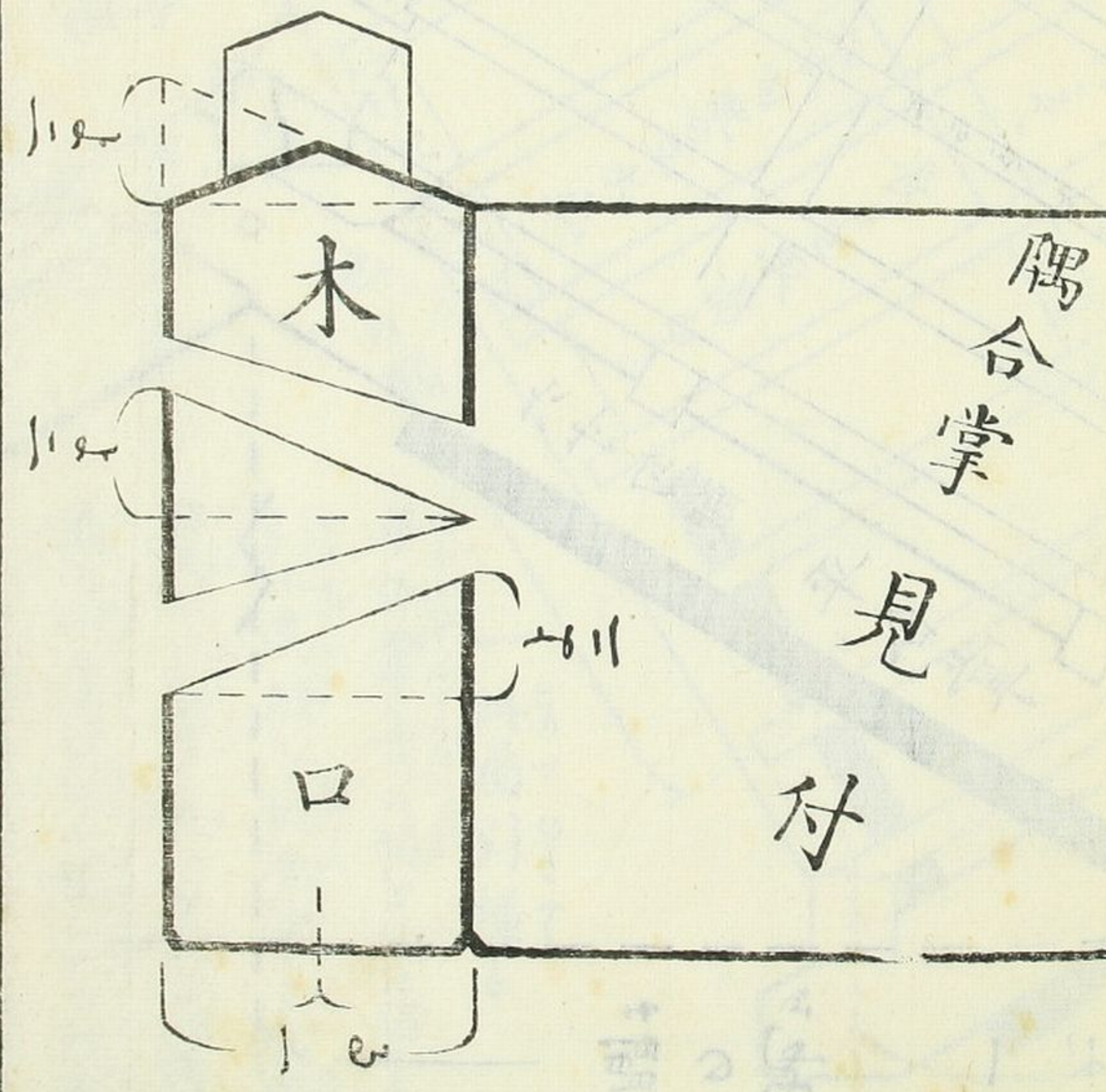
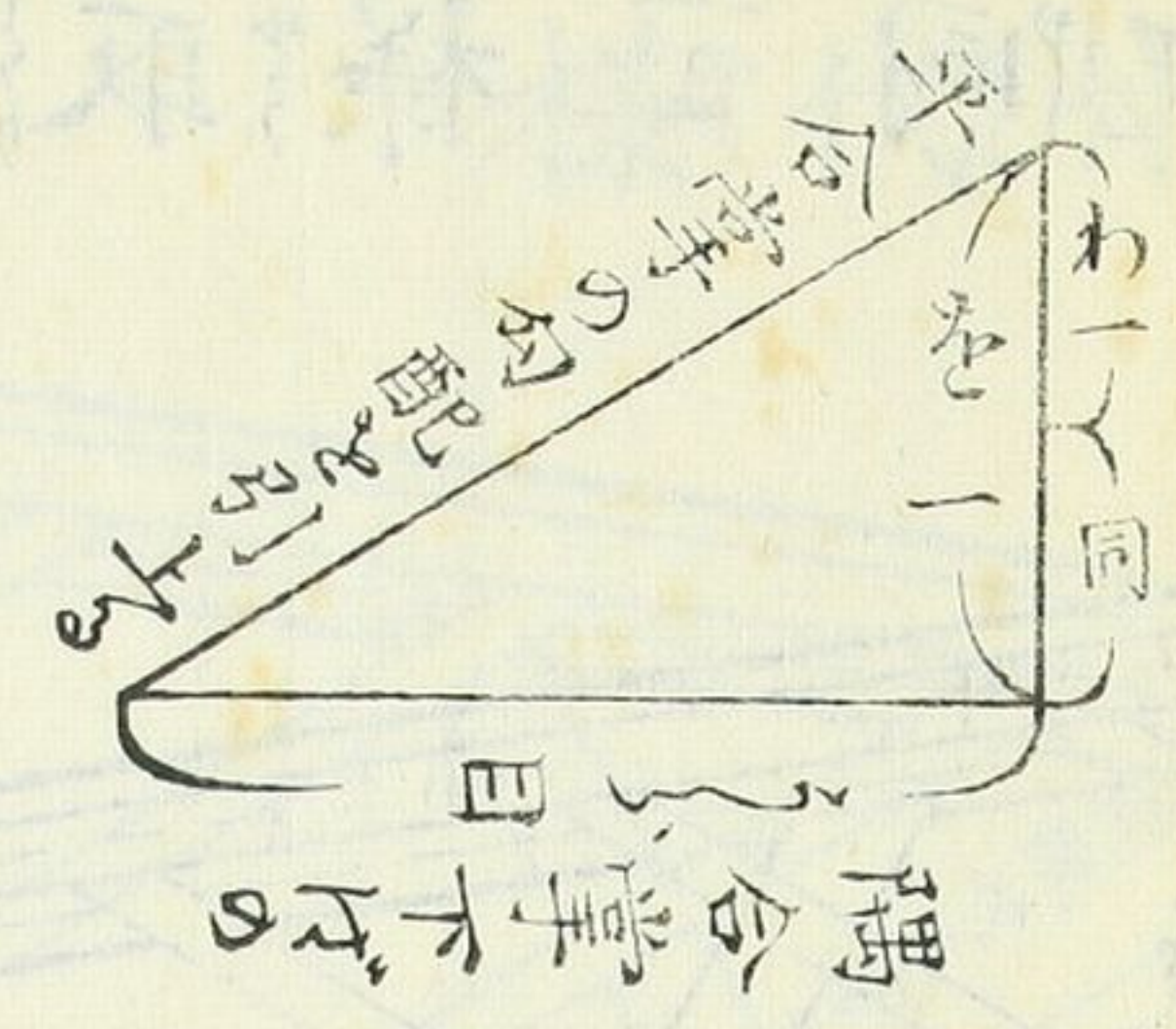
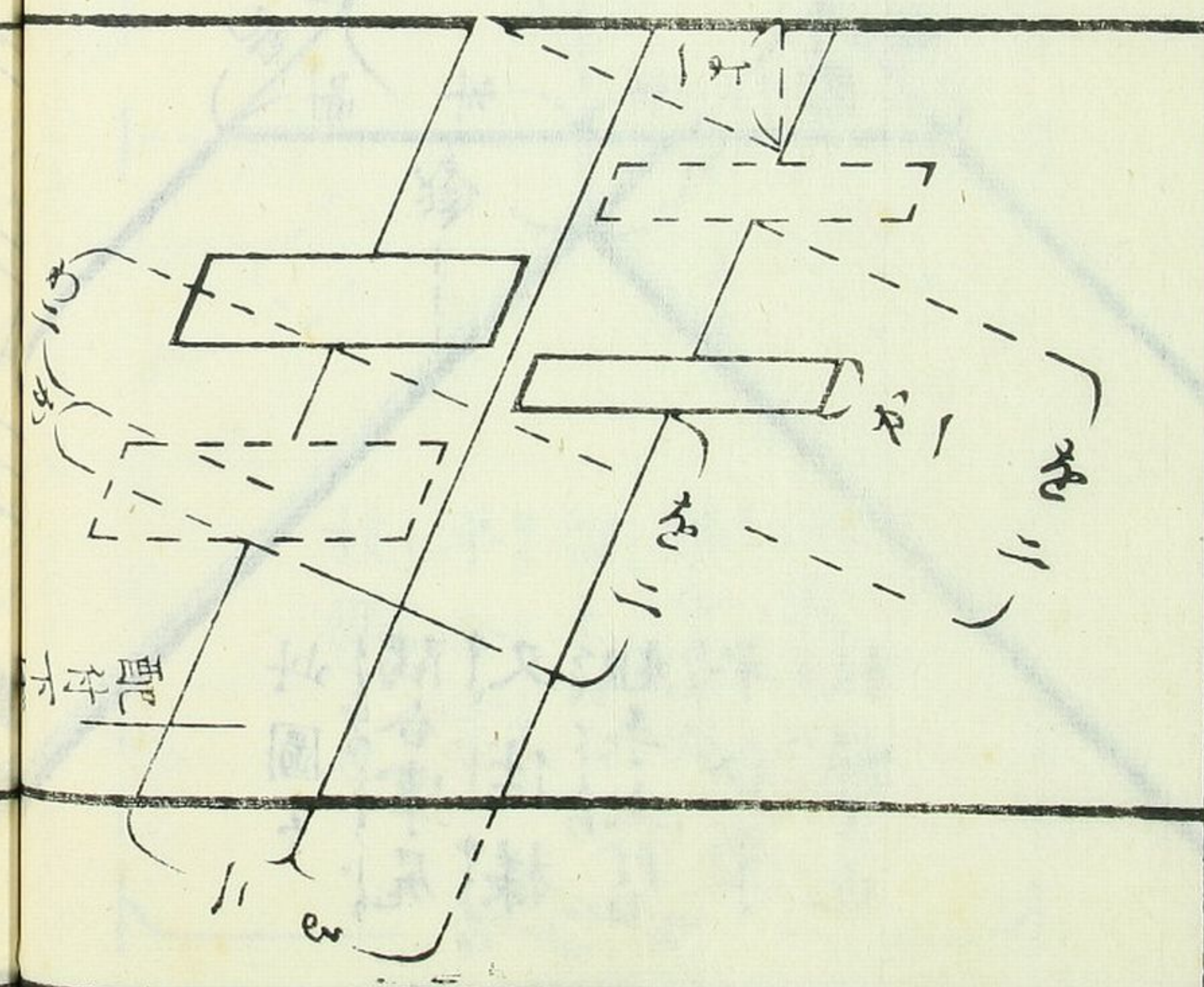
大工心置角組卷之

十一

同偶合掌に 配付穴墨仕様

一此穴墨をほそく馬様を穴墨の寸と立水は取て配付合掌に立水は馬どし又配付合掌のせいと偶合掌に馬も其理方は致し又此穴ハ偶合掌のよわさのためよあねも致す也

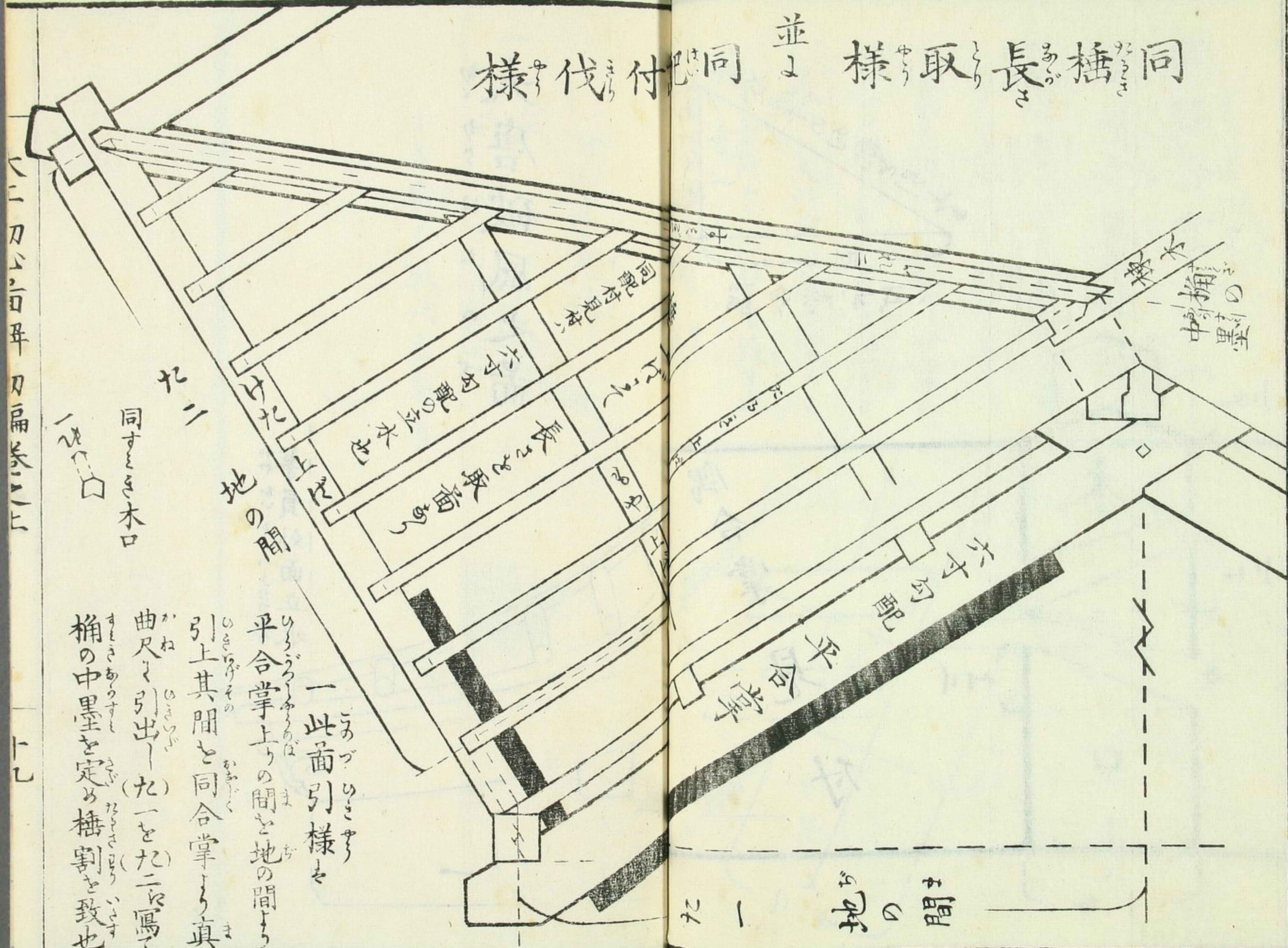
同に立上り出の様



大工新に置解初編卷之上

十七

同 榑長取様 並 同 付伐様



二ノカノ口ノ片ノ編カニ

同すとも木口

地の間

一 此面引様を
 平合掌上りの間を地の間より
 引上其間を同合掌より真
 曲尺より引出し一を九二に寫す
 榑の中墨を定め榑割を致也

トシ

九ノカノ口ノ片ノ編カニ

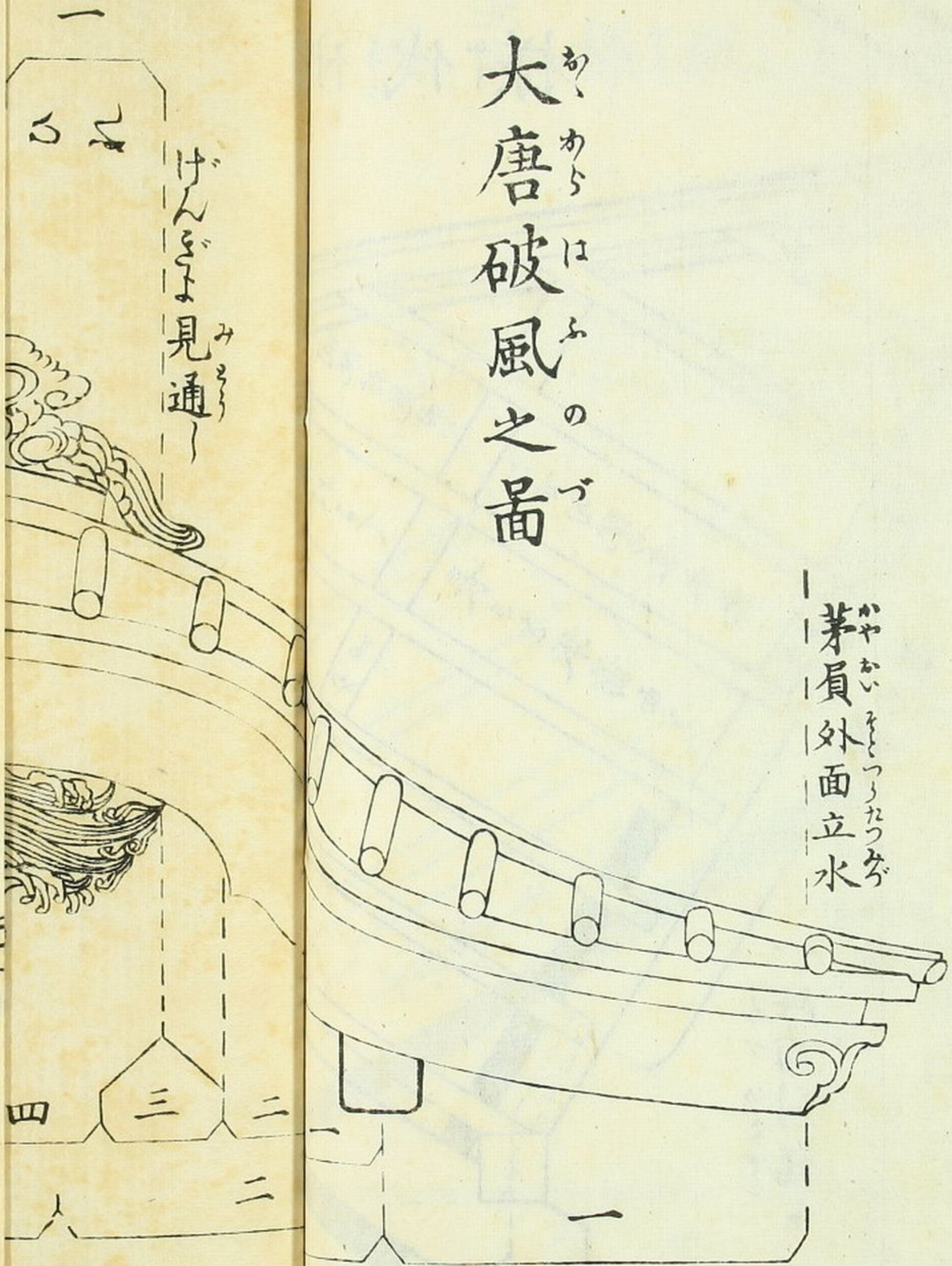
地の間

九

大工の心匠角に終る之

大唐破風之番

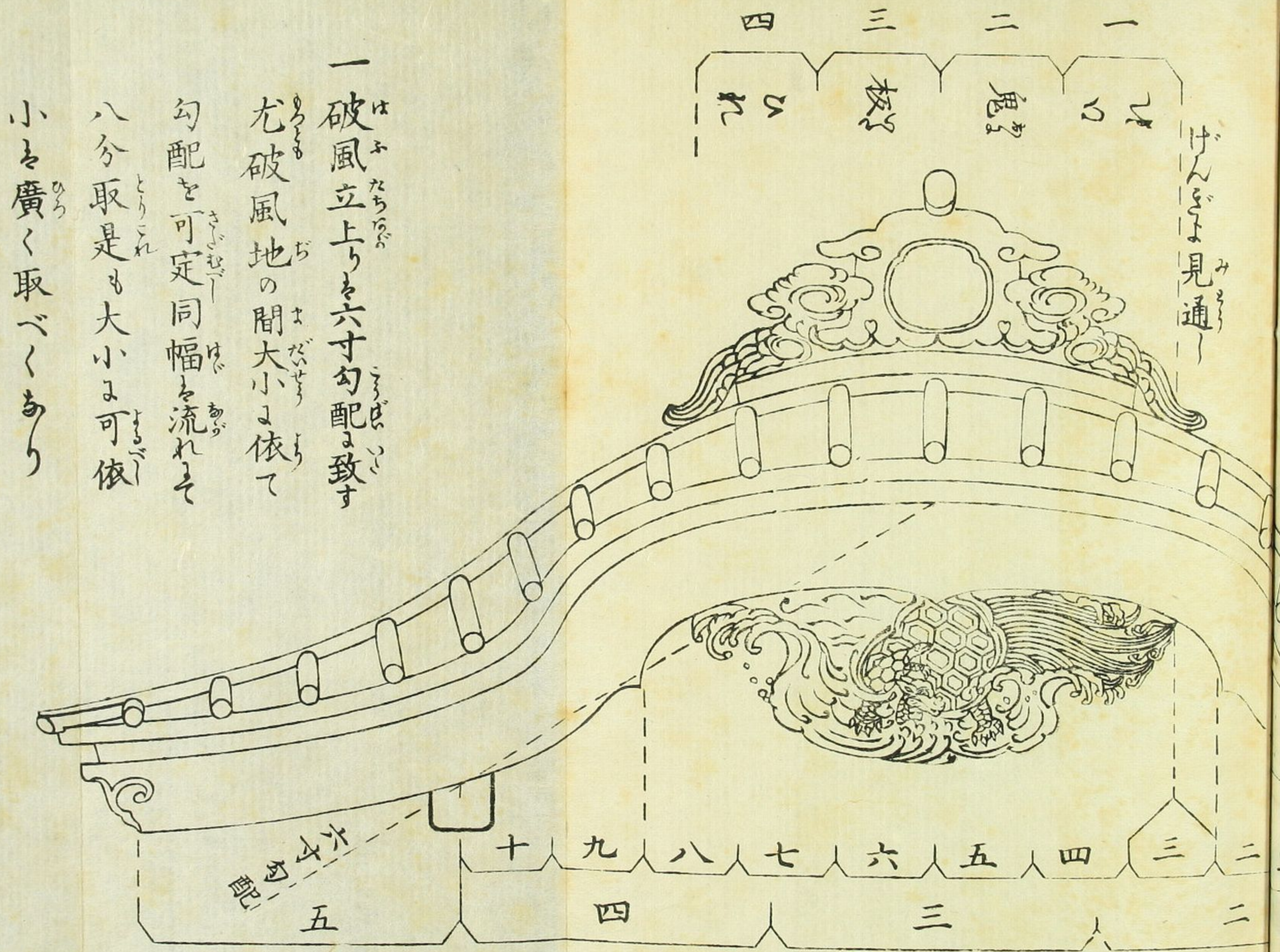
茅負外面立水



けんごよ見通

小と廣く取づくあり

大唐破風之番

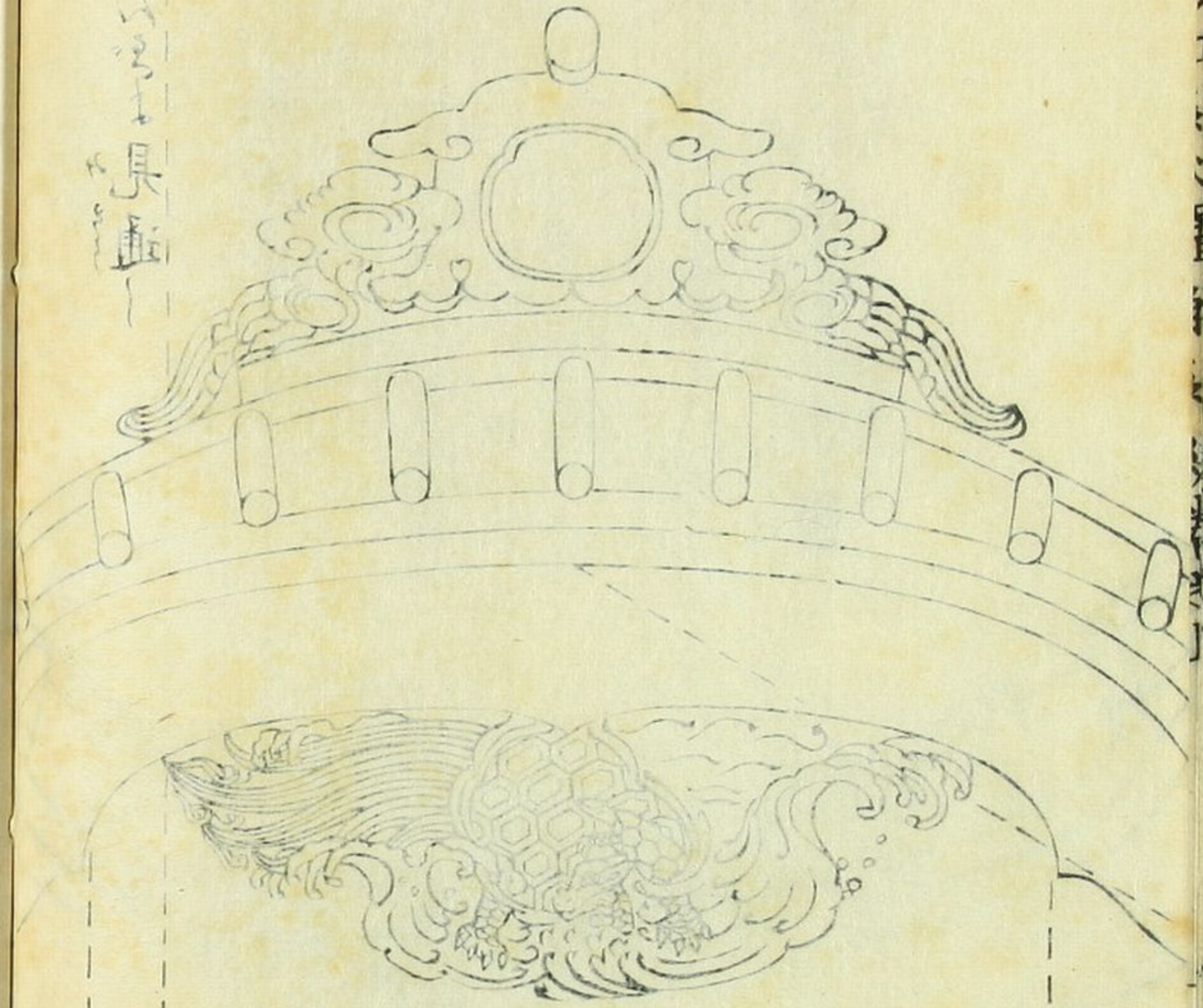


一 破風立上りも六寸勾配致す
 尤破風地の間大小に依て
 勾配を可定同幅を流れよ
 八分取是も大小に可依
 小を廣く取べくあり

一 二 三 四

之 二 馬 校 二 七

中
心
之
具
圖



三 四 五 六 七 八 九
二 三 四

